

## 第2期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

木 村 民 男\*

### I はじめに

#### 1 『耕人塾』開設の趣旨

平成24年10月、地域の中・高校生「人間力」を磨き、地域社会に貢献する人材育成を目指して『耕人塾』を開設した。それは、学校を超えて地域で若い人材を育てることの重要性を痛感してきたからである。人を育てるということは自分を育てることであり、学び合いや教え合いが人間の向上心や努力、感謝や責任感、謙虚さや思いやりにつながるからである。つまり、「まちづくりは人づくり」といわれるように、若い人材を育成する中で、それに関わることで大人自身も成長し、石巻地域全体のまちづくりへと発展していくと考えている。

特に、平成23年2月11日の東日本大震災からの復興にはそれぞれのリーダーとなる人材が不可欠である。この大災害をプラスに変えていくためにも人材育成が急務である。石巻地域の高い志を持った中・高校生を対象に、「人間力」を磨いて地域や社会に貢献する人材を育成するために、今年度、第2期『耕人塾』を立ち上げた。地域全体で人材育成に関わるという方針から、指導者には石巻地域の小・中学校の教員や社会人に依頼した。また、指導補助員として石巻専修大学の学生を関わらせることにより、学生の成長にもつなげたいと考えた。さらに、講師陣は石巻地域の各界各層で活躍している方をお願いした。そのような取り組みが石巻地域の人材育成と地域貢献につながっていくと考える。その実践報告をしたい。

#### 2 平成24年度の反省から

平成24年度は、6回の研修会を実施し、『耕人塾』で学んだことを普段の生活や学校生活に生かすなど、一人一人が大きく成長して22名の塾生が巣立っていった。

しかし、次のような課題が残った。①塾生募集には条件を付けなかったので、塾生の参加意欲に大きな差があり、グループ討議などで話し合いに参加できず、後半欠席した塾生も数名いた。②指導は教員15名、会社役員1名の構成であり、それぞれの役割分担を決めて6回の研修会を進めたが、一部の指導者にかなりの負担をかけた。③石巻専修大学学生8名を指導補助員として参加させて研修の補助をお願いしたが、塾生への指導助言など主体的な活動までには至らなかった。④石巻専修大学の学部長会や教授会で逐次情報提供をしながら進めてきたが、大学組織への位置づけが難しいなど多くの課題もあり、平成25年度に検討しながら進めていくことにした。

#### 3 平成25年度の活動方針

平成24年度の反省を生かし、次のような活動方針を立てた。

- (1) 塾生は校種や学年、個人によって参加意欲や能力に大きな差があるので、指導者や指導補助員（大学生）が積極的に関わる。
- (2) 講話を聴くだけでなく、グループ討議を通じて各自の考えを深め、発表力を養うとともに、講話から得たことを実践に結び付けるための工夫をする。
- (3) 1泊2日の宿泊研修を実施し、普段の研修では体験できない実践的な活動を取り入れる。宿泊会場は多様な活動ができる自然豊かな施設とする。
- (4) 運営委員会を立ち上げ、方針決定や資金面での支援をもらう。
- (5) より充実した研修にするため、多様な講師陣を依頼するとともに、塾生の主体性を育成するために役割分担を工夫する。

---

\*石巻専修大学人間学部人間教育学科

## II 実施要項

### 平成 25 年度『耕人塾』実施要項

『耕人塾』運営委員会

#### 1 趣旨

石巻専修大学（人間学部）と連携し、各界各層の講師を招聘するなどして、石巻地域の中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成する。併せて、地域の支援をいただき、大学生や一般の市民を巻き込んだ学びの場とするため『耕人塾』を開設する。

#### 2 名称・組織

- (1) 名称を『耕人塾』（塾長：木村民男）とし、事務局を石巻専修大学に置く。
- (2) 指導委員会は、指導者（小・中・高校・大学の教師及び地域の指導者）及び協力者、指導補助員（大学生等）で構成し、中・高校生を指導する。
- (3) 運営委員会は、大学、学校、企業等の関係者で構成し、方針及び資金調達等を決定し、広報活動や会計処理に当たる。
- (4) 指導委員会、運営委員会にそれぞれ委員長を置き、委員会を統括する。
- (5) 『耕人塾』に人材育成のための下部機関を置くことができる。

#### 3 指導内容

- (1) 社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動をとおして、「人間力」を向上させる。
- (2) 「文・武・楽三道（学問・武道・スポーツや趣味）」の体験をとおして、人間的な幅と深さを身に付けさせる。
- (3) 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

#### 4 日時・場所

- (1) 毎月1回（第3土曜日）18：30～20：30 実施、日程等は別に定める。
- (2) 基本的内容は、ショート講話 40 分、班別学習 60 分、まとめ 20 分とする。
- (3) 場所は石巻専修大学とする。

#### 5 対象及び定員

- (1) 保護者の承諾を得た石巻地域の中学生及び高校生とする。
- (2) 定員は 30 名程度（先着順）とする。

#### 6 留意事項

- (1) 服装は自由（場にふさわしい服装）とし、学習用具等は各自持参する。
- (2) 登録者名簿によって出欠はとるが、出欠は自由（荒天の場合も各自で判断）とする。ただし、必ず連絡をする。  
※ 「休塾」の場合は、『耕人塾』のホームページに掲載するとともに連絡用メールアドレス（複数可）にその旨を送信する。なお、緊急の場合はTEL0225-22-7713 内線 4300 にお問い合わせ願いたい。
- (3) 大学構内の安全には十分留意するが、通塾等は保護者の責任で送迎をお願いする。  
（送迎する保護者等については、できるだけ『耕人塾』を見学していただきたい。）
- (4) 受講料は 1,000 円/年（保険料等）とする。途中入塾及び退塾を認める。ただし、入・退塾届けを提出する。

#### 7 その他

- (1) 『耕人塾』入塾希望者は、「申込書」に本人署名・保護者署名捺印の上、「課題作文」を添えて石巻専修大学木村まで提出する。〔石巻専修大学人間学部 教授 木村民男 〒986-8580 石巻市南境新水戸1番地、TEL0225-22-7713 内線 3051（研究室直通）、FAX0225-22-7746〕  
※ 「申込書」及び「課題作文」用紙は『耕人塾』ホームページを活用願いたい。  
(<http://rodemtriton.sakura.ne.jp/koujinjyuku>)
- (2) 『耕人塾』についてのお問い合わせは下記までご連絡下さい。  
石巻専修大学（0225-22-7716）人間学部教授木村民男 or 事務部（相澤、新井）

### Ⅲ 活動計画

#### 平成 25 年度『耕人塾』年間活動計画

| 回  | 月/日<br>(曜)                 | 主 活 動                                                             | 活 動 内 容                                                                                             | 担当者等                  |
|----|----------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1  | 5/18<br>(土)                | 講話（教育・哲学）『『耕人塾』で目指しているもの』<br>講師：木村民男 氏<br>(石巻専修大学人間学部教授)          | ・自己紹介、ガイダンス、アイスブレイク<br>・『耕人塾』で目指している指導方針について<br>・行動目標である 10 項目の柱について<br>・「啓発録」、「一灯照隅」について           | 若生<br>稲辺              |
| 2  | 6/15<br>(土)                | 講話（国際理解）「世界一を目指す<br>中東ドバイの姿」<br>講師：岩淵 謙 氏<br>(石巻市立河南東中学校教諭)       | ・テーマに基づいた講話<br>・班別討議<br>・全体活動                                                                       | 稲辺<br>本田              |
| 3  | 7/20<br>(土)                | 宿泊学習事前指導<br>「幸せについて考える」<br>講師：平塚真一郎 氏<br>(石巻市立大須中学校教諭)            | ・テーマに基づいたショート講話<br>・宿泊研修のための事前指導<br>・心構え、活動内容<br>・持ち物その他                                            | 稲辺、平塚、<br>宮崎、中鉢<br>全員 |
| 4  | 8/17<br>(土)<br>8/18<br>(日) | (実践活動)「世界に誇れる石巻に<br>しよう～挨拶・清掃・ゴミ拾い」<br><1泊2日の合宿><br>場所：石巻西高校      | ○挨拶、清掃活動（講師：運営委員末永勘二<br>氏、井上一氏）<br>○社会貢献活動（講師：未定）<br>○スポーツ体験（講師：指導委員平塚真一郎氏）<br>○防災学習（講師：運営委員齋藤幸男氏）、 | 稲辺、平塚、<br>宮崎、中鉢<br>全員 |
| 5  | 9/21<br>(土)                | 講話（教育・哲学）「本当の自分と<br>もう一人の自分」<br>講師：山崎省一 氏<br>(石巻専修大学人間学部教授)       | ※宿泊研修の成果発表<br>・テーマに基づいたショート講話<br>・班別討議<br>・全体活動                                                     | 酒井<br>三浦              |
| 6  | 10/19<br>(土)               | 講話（スポーツ）「野球を通じて育<br>てたいもの」<br>講師：水沼武晴 氏<br>(石巻商業高等学校教諭)           | ・テーマに基づいたショート講話<br>・班別討議<br>・全体活動                                                                   | 平塚<br>須田              |
| 7  | 11/16<br>(土)               | 講話（地域・観光）「まちづくりと<br>観光」<br>講師：丸岡 泰氏<br>(石巻専修大学経営学部教授)             | ・テーマに基づいた講話<br>・アート体験（地域性、個性、魅力、オンリー<br>ワン）<br>○協力者：新妻健悦氏（アトリエ・コパン美術<br>教育研究所主宰）                    | 宮崎<br>菅井龍             |
| 8  | 12/21<br>(土)               | 講話（芸術・芸能）「人と社会を結<br>ぶデザイン」<br>講師宮崎祥江 氏<br>(㈱ビートニク取締役チーフデザイ<br>ナー) | ・テーマに基づいたショート講話<br>・デザインについての実践活動                                                                   | 宮崎<br>畠中<br>菅井龍       |
| 9  | 1/25<br>(土)<br>4 週         | 講話（伝統文化・郷土）「日本文化<br>と茅葺き屋根」<br>講師：熊谷秋雄 氏<br>(熊谷産業代表取締役)           | ・テーマに基づいたショート講話<br>・班別討議<br>・全体活動                                                                   | 村岡<br>阿部              |
| 10 | 2/15<br>(土)                | 講話（武道）「日本刀の芸術性と精<br>神性」<br>講師：鈴木俊一 氏<br>(日本美術刀剣保存協会理事)            | ・テーマに基づいたショート講話<br>・班別討議、全体活動<br>○演武：居合→今野幸夫氏（居合道五段）<br>試斬→菅井吉秀氏（剣道教士七段）                            | 若生<br>菅井秀             |
| 11 | 3/15<br>(土)                | 講話（産業・経済）「家業継承と<br>根っこにあるつながり」<br>講師：相澤 剛 氏<br>(㈱アイセイオート代表取締役)    | ・テーマに基づいたショート講話<br>・家系図作成                                                                           | 鈴木<br>大友              |

#### IV 活動内容（第1回～第11回）

※以下、『耕人塾』ホームページに掲載した内容を要約する。



##### 1 第1回『耕人塾』

〔日 時〕 平成25年5月18日（土）

〔場 所〕 石巻専修大学4103教室

〔テーマ〕 『耕人塾』で目指しているもの

〔講 師〕 木村民男（石巻専修大学人間学部 教授）

##### ○ 開会の挨拶（木村塾長）

「一灯照隅」の言葉をもとに、それぞれが実践できる社会貢献のあり方について考えてほしいことを説明した。さらに、耕人塾のねらいについて、資料「耕人塾第1号」をもとに以下を説明した。①社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動を通して、「人間力」を向上させる。②「文・武・楽（学問・武道・スポーツや趣味）」の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。③日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

##### ○ ガイダンス（指導委員）

活動内容と年間活動計画について、年間予定表をもとに説明した。

活動の方針では、挨拶や服装を自ら整えて行うことが大切であることを説明した。

指導委員の紹介（自己紹介）

##### ○ ショート講話（塾長）

「橋本左内の『啓発録』をもとに、『稚心（ちしん）を去る』『気を振るう』『志を立つ』『学に勉む』『交友を択（えら）ぶ』ことについて講話し、「橋本左内がどんな人間になろうとしたのか、そして、自分はどんな人間になったらよいのか」を塾生に投げかけた。

##### ○ アイスブレイク

初めて会う塾生同士の自己紹介やコミュニケーション・ゲームをしながら楽しい雰囲気をつくった。

##### ○ 班別討議

講師（塾長）が伝えたかったことは何かを4班に分かれて話し合った。

##### ○ 全体学習

各班の班長が、班で話し合ったことを発表した。今年度、初めての発表であり、緊張感が見られたが、やる気に満ちた表情で班別討議の内容を発表していた。

##### ○ 次回予告

課題用紙への記入と次回の「世界一を目指す中東ドバイの姿」について説明した。



## 2 第2回『耕人塾』

〔日 時〕 平成 25 年 6 月 15 日（土）18:30～20:30

〔場 所〕 石巻専修大学 4102、4103 教室

〔テーマ〕 『世界一をめざす中東ドバイの姿』

〔講 師〕 岩淵 謙氏（石巻市立河南東中学校 教諭）



### ○ 開会の挨拶、ショート講話（木村塾長）

『耕人』第2号を基にして、『耕人塾』の活動方針を説明した。

- ・社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動を通して、「人間力」を向上させる。
  - ・「文・武・楽（学問・武道・スポーツや趣味）の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。
  - ・日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。
- 上記について、その詳細文を自ら挙手した塾生が読んだ。

「日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。」では、大正時代に日本を訪れたアインシュタインが、日本人の謙虚さと質素さを絶賛した話を取り上げて説明した。

### ○ 『世界一をめざす中東ドバイの姿』

ドバイの日本人学校に勤務をしていた河南東中学校の岩淵先生を講師としてお迎えし、ドバイの様子を話していただいた。

ドバイの民族衣装をまとった岩淵先生がグーグルアースを使って、ドバイ位置を説明し、衛星写真の画像と地上からの写真を対比させて、塾生の興味・関心をさそった。

その後、石油の発見で2000年代に入り、人口が急激に増加したこと、石油での利益をインフラ整備に活用したり、国民に還元している



リーダーの判断と実行力の姿について、写真を見せながら、具体的に話した。



### ○ 班別討議

岩淵先生が伝えたかったことは何かについて班別に話し合った。講話で、日本とは違う国王の政策に驚き、その感想を述べながら岩淵先生が伝えたかったことをお互いに述べた。

### ○ 全体学習

各班の班長が、班で話し合ったことを発表した。今年度、2回目の発表で、発表者も自分たちで話し合って、全体発表した。

### ○ 次回予告

夏の合宿についてもあわせて伝え、合宿中に行くキンボールについては、実物のボールを見せて説明した。



### 3 第3回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成25年7月20日(土) 18:30~20:30  
〔場 所〕 石巻専修大学 4103 教室  
〔テーマ〕 『宿泊研修事前指導』  
〔講 師〕 平塚真一郎氏(石巻市立大須中学校 教諭)



#### ○ 開会の挨拶、ショート講話(木村塾長)

『耕人』第3号を基にして、宿泊研修の心構えなどについて説明した。

- ・宿泊研修では、「挨拶・清掃・ゴミ拾い」を中心的な活動として行います。
- ・「挨拶」は人の心を温かくしてくれます。自分から、相手の心に届く挨拶をしたいものです。
- ・「清掃」は、お世話になったものへの感謝の気持ちを表すことだと思います。
- ・トイレは一番汚いところというイメージがありますが、人間の排泄物を処理する大切な場所の一つです。
- ・トイレ掃除を心を込めてやった後は、爽やかな気持ちになると聞いたことがありますので、皆さんで実践してみましょう。
- ・「ゴミ拾い」は、人にために自分にできることをさりげなくやることです。
- ・人間が生きているということは、多くの命をいただいていることであり、人のために自分にできることをやることで、プラスマイナス0になるのだと思います。

上記について、自ら挙手した塾生が資料を基に読み、塾長がその詳細を伝えた。

#### ○ 『宿泊研修に向けて?「幸せ」について考える』

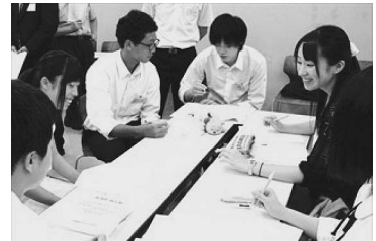
耕人塾指導員である大須中学校の平塚先生を講師として、以下のような内容を塾生との対話をとおして話していただいた。

- ・ものの見方・考え方について、これまでとは違う視点から捉えるおもしろさを話していただいた。
- ・コミュニケーションの大切さについて、「人間の目はなぜ前についているのか」という発問をとおして、塾生に考えてもらった。
- ・合宿で体験する「キンボール」のおもしろさや世界観について話していただいた。
- ・「幸せ」を手に入れるのではなく、「幸せ」を感じる「心」を手に入れたいものですという話をしていただいた。

#### ○ 班別討議

平塚先生が伝えたかったことは何かについて班別に話し合った。

講話で、ものの見方やとらえ方を変えてみることをのおもしろさに気づき、その感想を述べながら平塚先生が伝えたかったことをお互いに述べていた。



#### ○ 全体学習

班ごとに、自分たちで話し合って発表者を決め、班で話し合ったことを発表した。また、参観した保護者や一般の方と一緒に、自分から心を開き、互いに語り合っ「心を温めてみる」活動が行われた。

#### ○ 宿泊研修ガイダンス

宿泊研修に向けて、活動内容や留意事項が話された。

また、参観した保護者や一般の方と一緒に、自分から心を開き、互いに語り合っ「心を温め



てみる」活動が行われ、和やかな姿が会場にあふれていた。

#### 4 第4回『耕人塾』（宿泊研修）

〔日 時〕 平成25年8月17日（土）9:00～ 18日（日）15:00

〔場 所〕 宮城県石巻西高等学校

〔テーマ〕 宿泊研修「挨拶・清掃・ゴミ拾いを極めよう」「キンボール体験」「植樹活動」

〔講 師〕 ・挨拶：株式会社井上代表取締役 井上 一 氏、清掃：末永海産株式会社代表取締役 末永 勘二 氏、防災：宮城県石巻西高等学校校長 斎藤 幸男 氏、キンボール：石巻市立大須中学校教諭 平塚 真一郎 氏、植樹：NPO 法人スマイルシールド理事長 黄本 富士子 氏

##### 8月17日（土）〔1日目〕

##### ○「オリエンテーション」

石巻西高校を会場に、塾生14名、指導者16名、指導補助員1名、運営委員4名、講師15名、小学生及び保護者20名、見学者・その他5名、延べ70名以上の参加をいただいて、充実した研修を行うことができた。

オリエンテーションでは、木村塾長から宿泊研修のねらいを以下のように話していただいた。

- ・講話や体験活動を通して、『人間力』を向上させ、人間的な幅と深さを身に付ける。
- ・合宿生活を通して、塾生の相互理解を図りながら、社会貢献への高い志をもつ。
- ・「当たり前のことをよりすばらしく」、「自ら動く」、「かかわる」という実践目標をもつ。

##### ○「挨拶を極めよう」

株式会社井上代表取締役 井上 一 氏を講師として、企業で行っている挨拶について体験した。井上一氏の講話の後、6名の講師が3グループの中に入り、実践指導をしていただいた。立った時の姿勢、お辞儀の仕方、「はい」「おはようございます」「ありがとうございました」という挨拶の基本、声の大きさ、間など具体的な指導の後、グループ毎の成果発表と指導者の飛び入り参加に大きな拍手が湧いた。



○「清掃を極めよう」

末永海産株式会社 代表取締役 末永 勘二 氏を講師として、全国で広く実践されているトイレ清掃を体験した。

「なぜトイレ掃除なのか」という講話と全国で実践されているDVD鑑賞の後、男女に分かれて石巻西高校部室トイレの清掃をした。便器を素手で磨くことは初めてのことで戸惑いもあったが、末永さんの姿を見てどの塾生も進んでトイレ掃除心除に取り組んだ。魂を込めて掃除したトイレは2時間後には見違えるほどきれいになった。DVDの中で、トイレ掃除を実践し続けている鍵山氏の言葉「便器を磨くことは心を磨くことです」を自ら体感した塾生だった。



○「災間を生きる」

宮城県石巻西高等学校 校長 斎藤 幸男 氏を講師として、防災教育の講話をいただいた。

石巻地域の震災前と震災後の画像や動画を使っ  
ての分かりやすい講話  
は、あらためて防災教育の大切さを再確認することになった。



○「キンボールを楽しもう」

石巻市立大須中学校教諭 平塚 真一郎 氏（宮城県キンボール連盟副会長）を講師として、キンボール体験をした。スポーツ少年団活動としてキンボールを行っている小学生の協力により、楽しいひと時となりました。小学生から高校生の塾生が教えられる風景も微笑ましいものだった。



8月18日（日）〔2日目〕

○ 「ゴミ拾いを極めよう」

5時から6時半まで、石巻西高校から有明周辺を1周しゴミ拾いをした。早朝の清々しい空気を吸いながら街をきれいにするのは気持ちの良いものだった。ゴミ袋10個ほどのゴミが集まり、分別して市役所に持って行ってもらった。



○ 「社会貢献作業~植樹」

NPO 法人スマイルシールド理事長 黄本富士子 氏、他3名の指導の下、渡波大宮神社境内に広葉樹30本を植樹した。炎天下にも負けず境内の雑草取りを行い、その後、心を込めてクリやクヌギなどを植樹した。5年後、10年後に自分たちが植えた木がどのように生長しているか、楽しみだという塾生の感想があった。

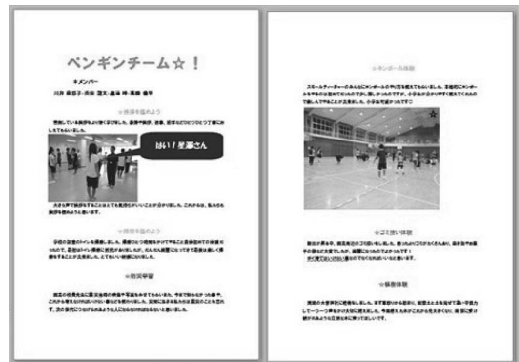
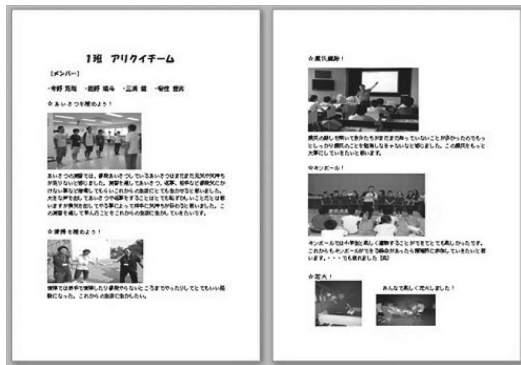


## 第2期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

### ○ 「合宿のまとめ」

2日間の合宿で分かったことや感じたことを、パソコンのワープロ・ソフトやプレゼン・ソフトを使ってまとめた。班ごと短時間でよくまとめ、お互いに鑑賞しあった。

### ○ 各班でのまとめ



※ 耕人塾合宿は、多くの方々のご支援ご協力のお陰で、大きな成果を残して終了することができた。宿泊会場を快くご提供いただいた石巻西高校の齋藤校長先生をはじめ諸先生方、ご支援ご協力いただいた多くの方々に心から感謝を申し上げます。

## 5 第5回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成25年9月21日(土) 18:30~20:30

〔場 所〕 石巻専修大学 4103 教室

〔テーマ〕 『本当の自分ともう一人の自分』

〔講 師〕 山崎省一 氏 (石巻専修大学 人間学部 教授)

### ○ 開会の挨拶 (木村塾長)

『耕人』第5号を基にして、宿泊研修を振り返って感じたことが話した。それぞれの講話についての話がなされた後、「目標に挑戦する場合、必ず大小の壁にぶつかりますが、目的を達成するためにどうすればよいかを真剣に考え強い情熱をもって念じ続ければ、必ず道は開けるとい言葉が大きな支えになりました。」と、塾長は述べた。



○ 『耕人塾宿泊研修の報告』

宿泊研修の２目にプレゼンテーション・ソフトやワープロにまとめた各班の感想をプロジェクターで投影し、見合った。宿泊研修に参加した塾生がまとめた映像と文書は、宿泊研修に参加できなかった塾生にも多くの気付きを促した。

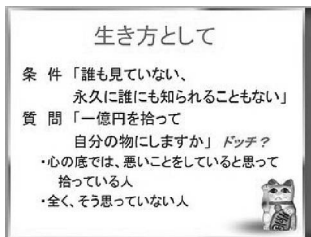
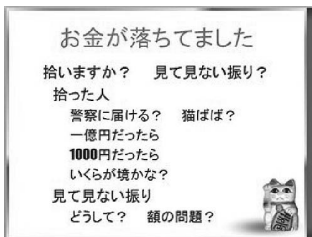


○ ショート講話『本当の自分ともう一人の自分』

石巻専修大学人間学部教授の山崎省一 氏から、「自分とは何か、どういう存在なのか」についてご講話をいただいた。自分とは何かという問いに対し、知る手がかりは「比較すること」であり、「みなさんは、強い人、優しい人、誠実な人、不誠実な人……。どっちですか。」と山崎先生は塾生に問いかけた。さらにつぎのようなプレゼン画像を基に塾生一人一人に問いかけた。



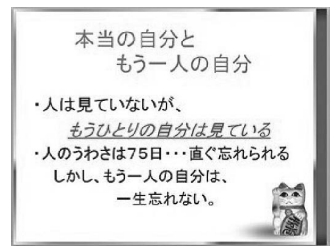
その他にもたくさんの問いかけを塾生にした山崎先生は、次のようなプレゼン画像を見せた。塾生が真剣な眼差しで山崎先生を見つめている顔が印象的だった。



○ 班別討議

山崎先生が伝えたかったことは何かについて班別に話し合った。

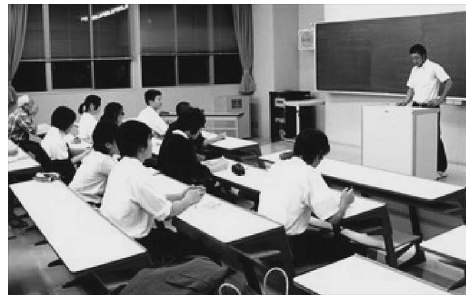
哲学的な内容で一人一人の倫理観も問われている内容に頭を抱える塾生もいたが、学年の分け隔てなく真剣に話し合う姿はとて素敵だった。



○ 全体学習

各班ごとに自分たちで話し合って発表者を決め、話し合ったことを発表した。

今回のテーマをどうまとめればよいのか迷っている塾生もいたが、やがて「本当の自分、偽りの自分の両方を受け止めることが大切だと思います。」「答えは出ないけれど、答えを考える過程が大切なんだと思いました。」などといった意見がどんどん出てきた。



6 第6回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成25年10月19日(土) 18:30~20:30

〔場 所〕 石巻専修大学5号館保育実習室

〔テーマ〕 『野球を通じて育てたいもの』

〔講 師〕 水沼 武晴 氏 (宮城県石巻商業高等学校 教諭)

○ 開会の挨拶(木村塾長)

概要：塾長は、『耕人』第6号に記載してある「耕人塾」実践10項目を基にして、「10項目のうち、2つか3つを選んで、自分の言葉で書き直し、机の前に貼って実行してみてください。」と、塾長は述べた。

さらに塾長は、「今回の講師先生を石巻商業高校の水沼先生にお願いしたのは強い願いからです。」と述べ、「石巻工業高校が甲子園に出たとき、石巻商業高校は惜しくも負けました。しかし、次の朝、私が車で石巻商業高校の脇を通ったら野球部の部員が黙々とトレーニングをしていました。その姿を見て、水沼先生は野球の指導だけではなく、人間としてのあり方を指導していると感じ、ぜひ耕人塾でお話をいただきたいと思っていました。」と水沼先生のご紹介をした。



○ 『耕人塾宿泊研修の報告』

宿泊研修の1日目に体験した「挨拶を極めよう」の実践を、宿泊研修に参加できなかった塾生も交えてあらためて行った。

はじめに、宿泊研修で素晴らしい挨拶を行ったペンギンチームがデモンストレーションを行い、続いて各班に分かれて挨拶の練習をした。ゲーム性のある挨拶の練習をしていく中で、塾生の顔が自然と笑顔になり、声も大きくなってきた。



○ ショート講話『野球を通じて育てたいもの』

講師の水沼武晴先生から、6年前の石巻商業高等学校野球部の様子や最近5年間の野球部の活躍についてお話しいただいた。

次に水沼先生は、「このような成績を収めることができたのは、プロの指導者に教えてもらったからでもなく、私立高校のように選手を集めたからでもありません。挨拶や学校生活をしっかりやったことで、野球の神様が勝たせてくれたのだと思います。」と述べた。

そして、水沼先生は、「このように挨拶や学校生活をしっかり行うことで、生徒は、野球や生活に対する姿勢が変わってきました。部活動開始の時間や表情、そして先生方からの信頼や評価が高まりました。」と述べ、「6年前は、甲子園を目指すと言いつても誰も信じませんでしたが、今は誰もが甲子園を目指すと言っています。」と付け加えた。



○ 班別討議

水沼先生が伝えたかったことは何かについて班別に話し合った。

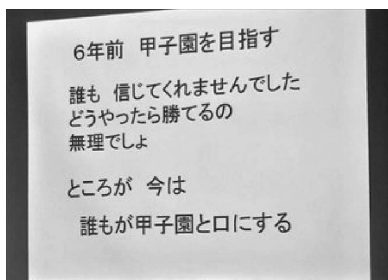
今回は指導補助委員の石巻専修大学大学生にも班別討議に入ってもらった。大学生が討議に入ること、塾生はより多くの気づきを促された。

○ 全体学習

班ごとに自分たちで話し合っ  
て発表者を決  
め、話し合った  
ことを発表し  
た。



今回は、塾生である中・高校生、指導員補助の大学生、指導委員や運営委員の先生方、そして参観していた保護者の皆さんに発表していただいた。世代を超えて自ら進んで発表する姿に、会場から割れんばかりの拍手が鳴り響いていた。



## 7 第7回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成25年11月16日(土) 18:30~20:50

〔場 所〕 石巻専修大学4号館1階 4103教室

〔テーマ〕 「住みたい、行きたいまちとは」

〔講 師〕 丸岡 泰 氏(石巻専修大学 経営学部教授)



### ○ 開会の挨拶(木村塾長)

概要：塾長は、ANA初の女性パイロット小林郁子さんの話を取り上げ、「小林さんは、24歳の時に『絶対パイロットになる』と決めてから11年かかり、現在エアセントラルの副操縦士として活躍しています。自力で免許を取得するためには1千万円のお金と猛勉強と厳しい訓練が必要で、休日返上で働いて資金を貯め、寸暇を惜しんで勉強をし、厳しい訓練にも耐え抜いたそうです。小林さんは、『あなりたい』とか『こうなりたいとか』口にする方は大勢いますが、行動に移さない方が多いので『本当になりたいと思っているの?』と感じてしまうそうです。『こうなりたい』という思いが本当にあれば、そのように自分で行動していくと思うとも述べています。そうしなければただの願望で終わってしまうし、夢に近づくことだってできないと思いますとも述べています。」と話した。

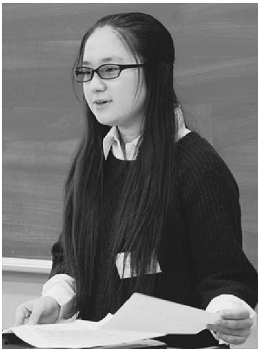
さらに塾長は、「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」という松井秀喜の恩師である山下智茂さんの言葉を取り上げ、ショート講話を閉じた。

### ○ 「高橋花織さんの弁論発表」

第51回石巻地区中学校生徒弁論大会で、最優秀賞となった塾生高橋花織さんの弁論を発表してもらった。

高橋さんは、耕人塾の活動を弁論の内容として取り上げ、「出会いの扉」の演題で意見を発表しました。弁論の中で高橋さんは、「中高生を対象にした人間力を磨く耕人塾で多分野の講師に接し、人間は一人では生きていけない。多くの出会いを重ね、新しい自分と会うことができた」と述べた。

塾生はもちろん、会場にいた大人達の心を揺さぶる素晴らしい発表だった。



### ○ 『住みたい、行きたい街とは』

石巻地方の経済発展には、観光が重要ではないかという視点で研究をしている石巻専修大学経済学部教授の丸岡先生から、『住みたい、行きたいまちとは』というテーマでお話をいただいた。

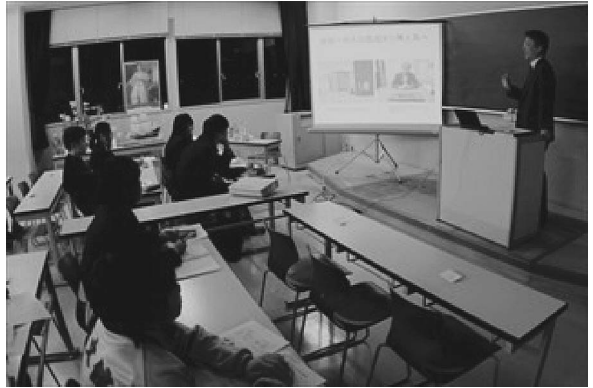
はじめに、丸岡先生は、「住む人が好むまちと観光客が好むまちは少し違うこともある」と話されました。そして、「全員が気に入るまちづくりは困難であり、あるものを簡単に取り除くことはできない。そこで、最大公約数となるまちの個性を磨くことが大切です。」と話され、いくつかのまちの事例を紹介した。

事例の1つは、炭鉱で栄えていた頃は世界一の人口密度で今、は無人島となった長崎市端島(軍艦島)である。事例を基に、日本の地方の町の現状は、第一次産業(農業・漁業)が停滞し、第二次産業(製造業)は



空洞化（アジアへ）、第三次産業（サービス業）が経済の中心となっていると話された。さらに、第三次産業はお客さんの多い都市部に集中するが、観光は地方で可能性がある数少ない有望なサービス産業になると話された。

次に、石巻というまちについてお話いただいた。石巻は港町であり、まちの骨格は来訪者向けにできているが、200 カイリ規制や捕鯨の困難化などから、来訪者は漁業関係者から家族連れへと変化してきていると話された。



このような状況にある石巻で、まちづくりと観光の資源として何があるのか、そのいくつかが紹介された。紹介されたのは、アート活動が活発な石巻の姿やサン・ファン・パウティスタ号で出航した慶長使節、石巻名産の牡蠣などだった。

そして、それらの観光資源を結びつけ、相乗効果を図ることが大切だと話された。

講話の最後に丸岡先生は、「みなさんの石巻活性化への挑戦に期待しています。」と塾生に話された。

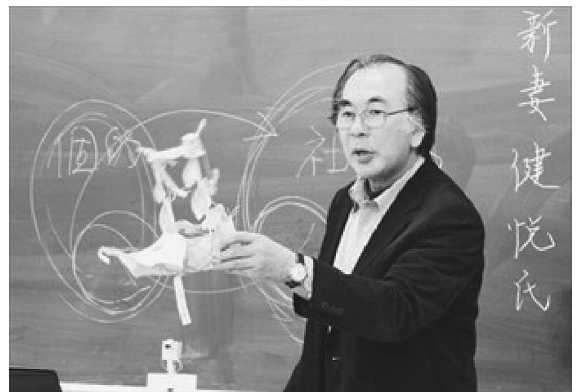
#### ○ 『アトリエ・コバン新妻先生によるワークショップ』

続いて、丸岡先生の講話でも取り上げられたアトリエ・コバン主宰の新妻健悦先生にワークショップをしていただきました。

はじめに新妻先生は、「人には〈社会的存在〉の部分と〈個人的存在〉の両面があり、バランスが取れていることが大切です。そして、造形活動にも〈他者に伝える表現〉と〈自分自身の気持ちのまま表現〉する2つがあり、この2つを行ったり来たりするのが実際の造形活動です。」と話された。

このような考え方を踏まえて、紙でサン・ファン・バイティスタのような船をつくる活動が行われた。

どの塾生も夢中になって、紙と向き合って作り続けていました。その姿は、まさに〈他者に伝える表現〉と〈自分自身の気持ちのまま表現〉する造形活動そのものだった。



## 第2期『耕人塾』での人材育成と地域貢献



### 8 第8回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成25年12月21日(土) 18:30 - 20:30

〔場 所〕 石巻専修大学4号館1階 4103教室

〔テーマ〕 「人と社会を結ぶデザイン ― クリスマスディスプレイをデザインしよう ―」

〔講 師〕 株式会社ビートニク  
取締役・チーフデザイナー 宮崎 祥江 氏



#### ○ 開会の挨拶（木村塾長）

岐阜県四日市から中高生9名、登米市中田から中学生1名が、講座をぜひ見学したいということで、今回一緒に参加するということを塾長が話し、すぐに講師先生による講話に入った。

#### ○ 『人と社会を結ぶデザイン ― クリスマスディスプレイをデザインしよう ―』

進行役の指導員より、宮崎祥江先生は、東京杉並区にある株式会社ビートニクの取締役兼チーフデザイナーをしているということや、祥江先生が、宮城県登米市東和のご出身で、小学

校から剣道を始め、高校時代に県大会個人戦で優勝し、全国大会出場しているということ、東京造形大学造形学部デザイン学科を卒業して近藤康夫デザイン事務所勤務。その後株式会社ビートニク設立し、現在に至っているという紹介がされた。また、いつもとは違う指導委員との対話形式で講話が進められた。

(指導委員) 始めに、祥江先生が、どのようなデザインの仕事をしているのか、「人と社会を結びつけたデザイン」のいくつかを制作秘話など絡めて教えていただきたいと思います。

(講師先生) 分かりました。このデザインは、12/17に開業したばかりの仙台ワシントンホテルのコンセプトルームで、「みやぎルーム」と呼ばれている客室です。



ワシントンホテルは基本的にはビジネスホテルなのですが、みやぎの観光アピールのために特別に設けられた客室です。

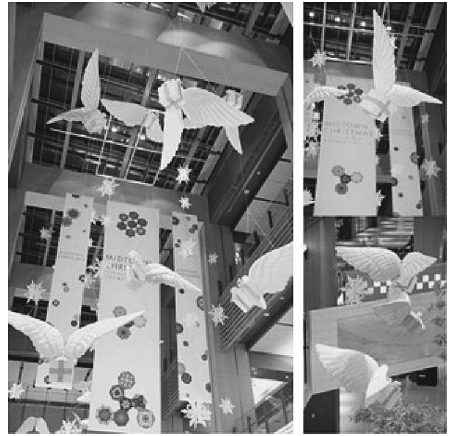
これはコンペという形式で、多くのデザイナーの作品の中から選ばれて実現したものです。

コンペという形式はデザイン業界ではたくさんあり、選ぶ側としては少ない予算で多くのデザインの中から選定できるというメリットがありますし、参加するデザイナーも、普段つきあいのないクライアントへのアピールができるメリットがあります。

ちなみにこの部屋は伊達政宗をテーマにしている、仙台城の上段の間というところを現代風にアレンジした部屋です。

さらに祥江先生は、イタリアに本拠地があるカッシーナイクスシーというデザイン家具やインテリア雑貨の東京ショールームをデザインしたときに、高品質なデザインを売っているブランドなので、何度もデザインがボツになり、やり直ししながら完成に至ったが、刺激的で楽しい仕事となったと話していた。

また、資生堂がアジア全般で行っているキャンペーン用の空間デザインをしたときには、イメージビジュアルを大切にして空間のデザインを考え、帽子をかぶっている女の人を強い日差しから涼やかに確実に守りますよというイメージを、丸い屋根のような物体で見立ててデザインしたと話していた。



この他に、六本木の東京ミッドタウンという複合施設の吹き抜けの部分で「誰かが誰かのサンタクロース」というテーマで飾ったときのディスプレイも見せてくれました。

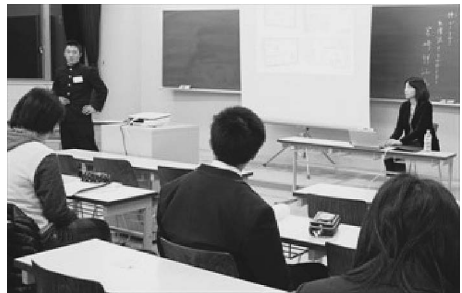
天使の羽がプレゼントを運んでいるデザインを見せていただきながら、日本の商業施設のクリスマスディスプレイは11月上旬から街に出始めるが、作る側は8月あたりから始めるため、真夏に真冬のことをイメージしてデザインしていると話していた。

(指導委員) ありがとうございます。次に、見せていただいたようなデザインを生み出すに至った祥江先生の人として背景を知りたいと思いますので、先生の生い立ちについて教えてください。

(講師先生) 進路については、確かにやってきたこととは全く違う方向だと人には思われていたのですが、私の中ではいつも何かモノ作りに関わる仕事がしたいという思いがあったので、たとえば砂山の砂が自然とさらさらと落ちてきて、その中にある自分の気持ちが年々確かに見えてくるみたいな感覚で、大学はデザインを学ばなくてはと自然に進路も決まっていたような感じです。

とはいえ、お話ししましたようにほとんど剣道しかしていない高校時代でしたから、1年浪人して美術大学に入学しました。卒業後は、店舗等のデザインと施工をする会社に入ったのですが、あまりデザインに力を入れていない会社だったので1年ぐらいで辞めてしまって、その後、近藤康夫デザイン事務所というインテリアデザインの事務所に入社しました。

業界では有名デザイン事務所で、ここでなら本格的にデザインの仕事をやっていけると意気込んで面接に行ったのですが、当時は大学卒業後1年で会社を辞めた程度だったので、社会人としてもデザイナーとしてもスキルはないに等しいんです。そこで面接で私が言ったことは、10代をほとんど剣道に費やしてきたので根性だけがあります！ということでした。もう捨て身というか、それしかなかったのが・・・それ



を師匠である近藤さんは気に入って、入社させてくださいました。

(指導委員) 剣道をとおして学んできた人間のとしての生き方を、近藤先生は評価したのですね。では、デザイナーとして社会に出たときに学んだことやご自身が心にとめていることなどについてを教えていただきたいのですが・・・。

(指導委員) デザインという仕事は、なんとなく華やかに見えるのですが、仕事をする相手はいろいろな業種の企業の方とのコミュニケーションから成り立っています。化粧品メーカーのような比較的華やかなところもあれば、以前、図書館のインテリアという仕事にも携わりましたが、そういうときは公務員の方が相手だったりします。住宅のインテリアをデザインするなら、一般の奥様が相手ということもあります。実に多様なお客様が相手ですから、逆にこちらは常識をしっかり踏まえていないと話すら聞いてもらえないということにもなります。服装も然りで、たとえばファッションブランドのインテリアデザインの仕事のときは、そのブランドの服で全身コーディネートしていくということもありますし、競合他社のものを身に付けていないとか服装一つとっても、戦略として臨むことも多い仕事です。



私は息子がいて、将来は『嵐』になりたい！と言っているのですが、学校に遅刻しそうになることが度々あって・・・それこそアイドルだって人としての基本的なことができていないと成り立たないと論じています。

ここにいるみなさんは、耕人塾という素晴らしい塾に通っている意識の高い方ばかりですから、お話しするまでもないとは思のですが、そんなことを少しでも覚えておいてもらえれば嬉しく思います。

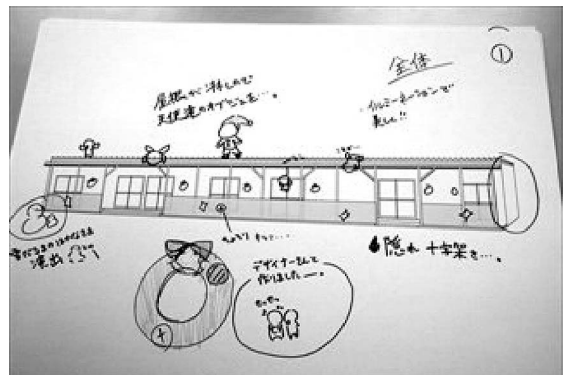
・・・対話の最後では、祥江先生や東京のデザイナーのみなさんが、東日本大震災後に東松島市立宮戸小学校のサポートをしてきた活動についてお話しいただいた。

講話後、自ら手を挙げた塾生の星澤君に司会をしてもらい質疑応答となりました。「一番大変だったことは何か」「職業病だなと感じたことは何か」「夢を実現するために、日頃意識していることは何か」「時間の使い方をどう工夫しているのか」などといった質問と講師先生の答えに対し、司会者としての感想を交えながら話を進める星澤君に大きな拍手が送られた。



#### ○ 『講師先生によるワークショップ 一仮設住宅のクリスマスディスプレイをデザインしよう』

質疑応答の後、祥江先生によるデザインのワークショップが行われた。石巻地域には、現在も多くの仮設住宅があり、そこに住むみなさんに少しでも温かな気持ちになっていただけるようなクリスマスのディスプレイをグループごとにデザインしてくださいという課題が提



示された。

グループごとのディスカッションは、講師先生の日頃の仕事を模擬的に行うような内容で、塾生は講話で聞いた相手の立場に立ったデザインはどうあるべきかと、白熱したディスカッションを繰り返していた。

そして、ディスカッションの内容をスケッチに仕上げた後、グループごとにデザインのコンセプトを話しました。塾生の話し方から熱い思いが込められた様子が伝わってきた。



各グループから提案された仮設住宅の方への思いをデザインしたクリスマスディスプレイの一つ一つは、今回の講師先生のテーマである「人と社会を結ぶデザイン」そのものとなった。



## 9 第9回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成26年1月25日（土）18:30 - 20:30

〔テーマ〕 「日本の伝統文化 ―茅葺き屋根―」

〔講 師〕 有限会社熊谷産業代表取締役 熊谷 秋雄氏、書家 竹嶋 大貴氏

### ○ 開会の挨拶（木村塾長）

「大寒が過ぎました。毎日の温度差があり、まだまだ寒い日が続きますが、もうすぐ「立春」ということで、少しずつ春に近付いています。」という挨拶から始まった。その後、松井秀喜選手の母校である石川県星陵高等学校の野球部のロッカーに貼ってある「心が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。」という言葉を紹介。この中で一番大切なのは、「行動が変わるくらい、自分の志を決意に変えていくことである。」と話した。



### ○ 講話（有限会社熊谷産業代表取締役 熊谷秋雄氏）

#### 【指導員による講師紹介】

熊谷秋雄氏は、日本の伝統文化の一つである『茅葺き屋根』を手掛ける熊谷産業の代表取締役であることを紹介。日本各地の著名な神社や仏閣をはじめ、全国に残る古民家の屋根をふく作業を行っていること、雄勝の『スレート』を用いて東京駅の屋根を手掛けたことなどが紹介された。また、日本の伝統文化に携わるだけでなく、世界とつながる活動も行うほどの国際派であり、仕事だけでなく友人としても世界の人たちとのかかわりが多いことも紹介された。

#### 【活動内容の確認】

今までの講義形式での講話とは異なり、2名の塾生が司会者となり、インタビュー形式で実施した。



(司会) 初めに、日本の伝統文化の一つである『茅葺き屋根』について教えていただきたいと思います。

(講師) 「茅」という植物名はなく、ヨシやススキ、稲わらなどの植物が屋根に使用されると「茅」と呼ばれます。ヨシという植物は一年で2?3 m伸びるほど生育が早く、水を浄化する作用もある優れた植物の一つなのです。そのヨシが北上川にはたくさん生えており、それを刈り取って茅葺き屋根を施工しているので、環境を考えた作業を行っていると言えます。また、茅葺きは日本の伝統文化であると思われがちですが、世界中には茅葺きを利用した建物などが実際にあるのです。(映像資料をもとに説明)

(司会) 茅葺き屋根を手掛けることになったきっかけについて教えてください。

(講師) 大学卒業後、青年海外協力隊としてフィリピンに行きました。そこで『棚田』や『茅葺き建築』が多いことに気付き、実家の稼業(茅葺き屋根の施工)に興味をもち始めました。帰国後、北上町に戻ってみると、北上川のヨシ原が全然刈り取られてなくて大変荒れており、昔のような状態ではありませんでした。何とかこのヨシ原を元の姿に戻したいと思い、茅葺き屋根を手掛けることにしました。



(司会) 現在、茅葺き屋根を手掛けている場所などについて教えてください。

(講師) 旧河南町前谷地にあり、国の名勝にも指定された『齋藤氏庭園』の建物を最近まで手掛けました。現在は、東京や栃木の宇都宮で作業を行っています。また、近々、『国際茅葺き会議』というものが南アフリカのケープタウンであり、それに参加する日本人(5名)の一人として、約一週間現地に行く予定です。日本各地で作業を行いながら、海外での活動にも携わっているのが現状です。



(司会) ヨーロッパの国々とのかわりも多いようですが、なぜ、ヨーロッパと茅葺きが関係しているのでしょうか。

(講師) 元々、ヨーロッパにもヨシが多く生えている土地があり、そのヨシを使った建物など造る文化がありました。例えば、オランダには風車の世界遺産がありますが、それも茅葺きで出来ています。また、消防署や住宅の壁や屋根も茅葺きで施工されています。デンマークの島には、海藻を使用した茅葺き屋根もあります。南アフリカの国際空港の屋根なども茅葺きで施工されているのです。つまり、世界の至る所で茅葺きが使われています。しかし日本では、公共施設に燃えるものを使用してはいけないということになっており、「景観にやさしく、きれいなものをどのように作るか」という発想がなくなってしまいました。それは、人材育成にも関係していると思います。新たな発想をさせないようにしている現状が、若い世代の育成に良くないのではないかと考えています。

(司会) 日本では茅葺きを町並みに使うということは少ないですからね。職人さんの数というのはどうなのでしょう。

(講師) 日本では職人の数は減っており、新たに職人を育てることもなかなか難しいです。50棟くらいを手掛けるのが限度です。しかしヨーロッパの国々には800人くらいの職人がいて、

年間 2000-3000 棟くらいの新築の茅葺きが建っています。

(塾長) 震災後にデンマークへ行ったとき、茅葺き屋根の家があって驚きました。しかも、近代的な建物に合っていました。私が一つ心配なことは、日本は外国から少しでも良いものが入ってくると、一斉にそちらの方向に進んでしまいます。もちろん、近代建築を否定するつもりはありませんが、日本の伝統文化を残すシステムはできないだろうかと考えています。日本人の中に「良いものを残す」という心を育てていかないと、日本の素晴らしい伝統文化がなくなってしまうのではないかと心配です。

(講師) 私もいろいろ考えましたが、日本の伝統文化を一つの産業にしていかないと、これから先残らないのではないかと思います。伝統文化を保護することも必要ですが、保護するだけでなく、自由に活用できるように発想を変えていかないと、もう残らないのではないかと思います。伝統文化を守るシステムは必要ですが、どういうもので次の世代が興味をもち、茅葺きなどの世界に入ってくるかなども考えています。物を作るということは楽しいです。その物作りの楽しさややりがいというものを広めたり、日本人の価値観を変えたりしていけないといけないのではないかと思います。

(司会) ヨシは、茅葺き以外にも使われていることはありますか。

(講師) 山形のさくらんぼは、一つ一つ人の手で受粉するのではなく、「マメコバチ」というハチの力を借りて受粉しています。そのマメコバチが巣を作るのにヨシが使用されています。また、建物の屋根だけでなく、壁もヨシでふくことがあり、実際に熊谷産業の事務所を行いました。ヨシはとても断熱効果がある素材なので、温暖化対策の一つになるのではないかと考えています。



(司会) 現在、思うことや大切にしていることがあれば教えてください。



(講師) 石巻にある素材を使って、何かに役立てたいと考えています。「これは草だ。これは石だ。」と決めつけるのではなく、視点を変えて何かに利用できないかと考えていきたいです。実際に、日本の至る所で石巻の『石』が使われているのです。自分たちの故郷が持っている素材を今後も生かしていきたいです。

#### ○ 工作・書道体験（書家 竹嶋大貴氏）

福井県を拠点に書の活動を行っており、現在は熊谷社長の補佐もしている書家の竹嶋大貴氏のご指導をいただき、ヨシを使って筆を作り、ヨシを漉いた和紙に、好きな文字や自分の気持ちを書いてみる体験を行った。

まず、ヨシを使った筆作りに一人一人が取り組んだ。ヨシの穂を束ねて竹の筒に挿し込み、はさみを使ってヨシの穂を



適当な長さに整えた。あまり切らずに長い穂のままで仕上げたり、扱いやすいように短く切ったりするなど、オリジナルの筆を作った。

次に、半紙に試し書きを行った。いつも使っている筆とは異なり、思うように書けないことに悪戦苦闘しながらも、「自分が大切にしていること」や「本日の講話で感じたこと」などを文字や言葉で表していた。

いよいよ、ヨシを漉いた和紙に清書することになった。思いっきりよく書き出す子、じっくりと考えてから書き始めた子、互いに相談しながら書き方を考える子など、取り組む塾生の姿は様々だった。

それぞれの作品が出来上がると、上手に書けているところを褒め合ったり、書いてみての感想を伝え合ったりと、和気藹々とした雰囲気の中で作品を見合っていた。塾生だけでなく、保護者の方々も体験され、親子でお互いの作品を見せ合う光景は、とても微笑ましいものだった。

体験活動後には、全体場で自分の作品とその言葉や文字を選んだ理由を発表し合った。

(塾生の感想)

- ・部活動と関連させ、チームプレーの大切さをイメージして「輪」という文字にしました。
- ・自分の名前にある「花」という字が好きで書きました。すると、母も同じ字を書いていることに驚きました。

最後に、本日の耕人塾を通して感じたことを2名の塾生と木村塾長からあった。

(塾生) 自分は一つの考えをもってしまうと、他のことが考えられなくなります。新しいことも想像できないことが多いです。しかし、本日の講話を聞いて、身近なものも様々なことに活用できると分かったので、今後は視点を変えられるようにしていきます。

(塾生) ヨシを使った茅葺きは、日本独特のものかと思っていましたが、外国にもある文化の一つだと知って驚きました。

(塾長) 人は手に入りやすいものを身の回りに数多く置いて満足してしまいがちです。そうではなく、ものを見る目を養い、少なくともいいから本物を見極めて身の回りに置く生活スタイルに変えられないかと感じました。



## — 連 絡 —

第9回の耕人塾に講師として来ていただいた竹嶋大貴氏の個展が、3月から北上町の迫分温泉で開催されます。そこに、今回の耕人塾で塾生が書いた作品も一緒に展示してもらえることになりました。塾生の作品は一足先に展示されていますので、是非、ご覧ください。



## 10 第10回 『耕人塾』

[日 時] 平成26年2月15日(土) 18:30 -20:30

[テーマ] 「日本刀の芸術性と精神性」

[講 師] 講話：日本美術刀剣保存協会宮城県支部会長

|                    |         |
|--------------------|---------|
|                    | 鈴木 俊一 氏 |
| 日本美術刀剣保存協会宮城県支部副会長 | 後藤 三夫 氏 |
| 日本美術刀剣保存協会宮城県支部会員  | 太田 俊治 氏 |
| 試斬 : 剣道教士七段・居合道三段  | 菅井 吉秀 氏 |
| 居合 : 剣道錬士六段・居合道五段  | 今野 幸夫 氏 |



### ○ 開会の挨拶(木村塾長)

### ○ 講話(日本美術刀剣保存協会宮城県支部会長 鈴木 俊一 氏)

講話では、日本刀の成り立ちやつくりについて詳しく教えていただいた。日本刀は、戦の道具としてつくられたものだけではなく、鑑賞するための美術的な価値のあるものも昔から存在していた。また、刀を見ればその時代背景などを知ることができ、歴史的にも興味深いものであることが分かった。

塾生たちは実物の日本刀の前に立ち、一礼してから手に持って見学させていただいた。講師の先生方に詳しく説明していただきながら、真剣の鋭さや波紋の美しさを見て、何かを感じていたようだった。



### ○ 居合演武(剣道錬士六段・居合道五段 今野 幸夫 氏)

居合は、敵がいることを想定して刀を抜くものである。演武では、目に見えない相手を刀で斬ったり、突いたりする動作があったが、上品な立ち居振る舞いで、崇高な雰囲気を感じた。



正座している状態から始まり、刀を抜いて力強く振り下ろしたり、連続の技があったりと、とても迫力があった。表情を一切変えず、相手を斬った後には間をとったり、静かにゆっくりと刀を鞘に納めたりするなど、その所作からは、スポーツとは異なる「勝っても相手の気持ちや立場を慮る」といった現代の日本人が忘れかけている武道の精神を垣間見ることができた。



### ○ 試斬演武(剣道教士七段・居合道三段 菅井 吉秀 氏)

講師先生の話によると、簡単に斬っているように見えるが、初めてやる人は、ほとんど斬れないそうである。斬るためには、力だけではなくいくつかの技術が必要で、斬る方向に刃筋を立ててまっ

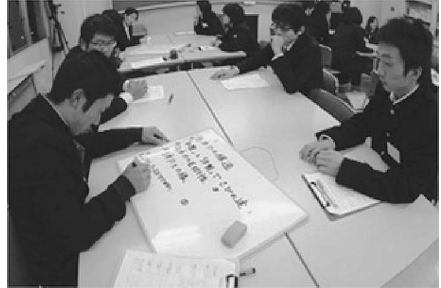
すぐに刀を振ることや、斬るときに刀を引くようにするなど、練習して技術を磨かなければなかなかできないことが分かった。質疑では、日本刀の手入れの仕方についての質問が出され、実際に手入れの仕方を見せていただいた。

○ 班別討議（討議のテーマ「講師の話を聞いて考えたこと、感じたこと」）

「日本刀の芸術性と精神性」といっても、このテーマの中には様々な要素があり、今回の班別討議では、論点を絞るのが難しいのではないかと思われた。しかし、塾生たちは講話を聞き、居合と試斬の演武を見て感じたことを積極的に表現していた。

- ・「刀の構造を知るいい機会になった。」
- ・「見て楽しむ美術としての面を知れた。」
- ・「錆を見て楽しんだり、反りを見て名刀かどうか判断したりするなど、芸術的な楽しみ方がある。その一方で武器としての歴史の深さもある。」
- ・「はじめは刀は軽く振れると思っていたが、重かった。」
- ・「演武の際、先生の表情が真剣で、精神が高まっていると感じた。」
- ・「居合などの所作から刀の大切さがわかった。」
- ・「日本刀のつくり方について、芸術的になったのはなぜなのか興味がわいた。」
- ・「日本刀は私たちとかけはなれた存在ではなく、自分たちの何代か前の先祖は持っていたということから、意外にも近い存在であることに気付かされた。」

このように、塾生たちからは様々な意見や感想を聞くことができた。ともすると、最新の技術や情報ばかりを重要視しがちであるが、今回、日本刀の芸術性と精神性に触れることによって、改めて日本の伝統的な文化や歴史に目を向けていこうとする意識が高まったのではないかと感じた。



11 第11回『耕人塾』

【日 時】 平成26年3月15日（土）18:30 -20:00

【テーマ】 「家業継承と根っこにあるつながり」

【講 師】 （株）アイセイオート代表取締役 相澤 剛 氏

○ 開会の挨拶（木村塾長）

○ 講話（株）アイセイオート代表取締役 相澤 剛 氏

講話では、講師の相澤氏が大学を卒業後、父親から家業を継承し、社長として会社運営を行っている現在に至るまで、様々な経験を通して考えたこと、大切にしていることなどを塾生に熱く伝えてくださいました。講話の内容の一部を紹介したい。

優良企業の人事担当者の面接採用基準、適性検査入社試験の基準などを当社でも採用していますが、どんなことだと思いますか？





「親の誕生日（生年月日）を知っていますか？」

「そこであなたは何をしていますか？」という質問です。

親に感謝して、プレゼントを当たり前に行える人材。おじいさん、おばあさんも含め、今の自分があるのは家族のおかげであると感謝の意を行動で示せる人材は、会社組織においても、お客様、取引先に対しても敬意や感謝の意を行動で示せるからです。

実はこれはＪＲなど大手企業の面接の質

問で重要項目なのです。当社でも今はこの質問を投げ掛けて、このような心をもって行動できる人しか採用しないようにしています。

相澤氏は、講話を通して、自分の父母、祖父母をはじめ、自分に関係する親族を含めた祖先を知り、自分のルーツを明らかにすることで、自分がどんなつながりの中で生かされ、これから生きていくべきなのかが見えてくると話された。塾生のみならず、参加した大学生、保護者、指導員の心に響く講話だった。

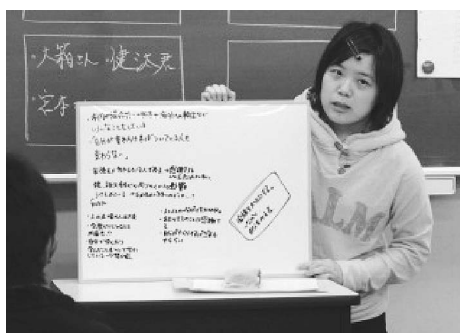
#### ○ 質疑

十分な時間が取れず、班別討議を通して、感想などを交流し合うことにした。

#### ○ 班別討議（討議のテーマ「講師の話を聞いて考えたこと、感じたこと」）

班別討議の中では、講話を聞き、それぞれに考えたこと、感じたことを発表し合い、それをホワイトボードにまとめた。会社を運営するために様々な工夫をしてきたこと、企業が求めている人材とはどんな人材なのかなどにして、意見を交流しました。講師の相澤氏が伝えたかったことが塾生の心に届いていた。

- ・様々な工夫をして、会社運営をしている。リーダーとしての立場は大変である。
- ・自分が変わらなければ、ついてくる人たちも変わらないと思う。
- ・学歴だけが大切なのではない。内面を磨くことも大切である。



- ・人と人とのつながりを大切にする。そのことで自分が変わっていくと思う。
- ・家族を大切にする。そして、当たり前のことに感謝していきたい。
- ・なかなかできないことではあるが、親、祖父母などの周りの人からの影響を素直に受け止めることが大切である。
- ・人と人とのつながりの根っこにあるのは、人間

性ではないか。人間性から人脈が生まれてくると感じた。

今回が平成25年度最後の耕人塾の活動。修了式を迎える塾生たちにとって、自分自身の生き方を考える良い機会となった。



## 12 平成 25 年度耕人塾 第 2 期生修了式



## V 成果と課題

### (1) 成果

- ① 延べ 19 名の多様な講師陣を招聘することができ、充実した研修になった。塾生の講話を聴く態度が見に付き、メモの取り方や自分の考えのまとめ方が格段に向上した。また、班内の討議はリーダーを中心に活発に行われ、班としてのまとまりができ、班ごとの発表では、積極的に挙手をし、説得力のある話し方ができるようになった。
- ② 昨年度の反省からできるだけ制服での参加にした結果、塾生の心構えが違ってきた。さらに、研修内容によって場の設定を工夫したことで、研修意欲の向上につながった。
- ③ 宿泊研修では「挨拶を極めよう」、「清掃を極めよう」、「防災学習」、「キンボールを楽しもう」、「ごみ拾いを極めよう」、「社会奉仕作業（植樹）」など、盛りだくさんの活動内容を積極的に参加し、実践活動から学ぶことも多く、成果大であった。
- ④ 指導者が 16 名に増え、各役割分担をしながら積極的な取り組みをしてくれた。特に、若手教員がベテラン教員に学びながら、塾生の指導助言に当たっていたのが良かった。また、指導補助員の大学生は、会場準備や会場への案内、場の設定等に積極的に働き、塾生や保護者、指導者から感謝された。
- ⑤ 運営委員会を立ち上げ、活動方針の決定や資金面での支援など、『耕人塾』としての組織をつくることができた。また、ホームページやマスコミ等を通じて『耕人塾』の取り組みが少しずつ理解されてきている。

### (2) 課題

- ① 塾生の募集について教育委員会や各高校に説明したが、30 名の定員には満たなかった。その原因は、各学校のリーダー的な生徒は、生徒会役員や部活動で活躍している者が多く、土曜日

## 第2期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

の夜であっても参加する時間的余裕がない状況である。また、保護者の送り迎えが条件なので、そのことがネックになっている生徒もいる。しかし、『耕人塾』が魅力ある内容であれば必ず塾生は集まるはずである。その工夫が必要である。

- ② 各界各層の特色ある講師陣においでいただき、有益なお話をいただいたが、塾生の主体的な活動や実践活動が少なかった。「人間力」を身に付けるためには、主体的な実践活動をどう取り入れていくかが今後の課題である。
- ③ 指導補助員として剣道部を中心に8人の学生が協力し、会場準備や後片付けなど積極的に働いてくれたが、活動や研修への助言までには至らなかった。来年度は塾生の一員として参加させるための工夫が必要である。
- ④ 宿泊研修は多種多様な活動や研修を取り入れて成果はあったが、内容が多すぎてじっくり取り組んだり、振り返りの時間を取ったりすることができなかった。内容を精選し、自然体験やレクリエーションなども取り入れて、楽しく充実したものにする必要がある。
- ⑤ 講話による一斉の活動が多かったため、塾生が主体的に活動する場面が少なかった。今後は、班ごとのテーマを設定して実践活動を重視するなど、「人間力」を身に付けるための具体的な研修内容を工夫する必要がある。

## VI おわりに

平成25年度、第2期『耕人塾』を3月15日（土）に終了することができた。5月18日（土）の第1回からスタートし、第11回の研修会を無事終えることができた。ご協力をいただいた運営委員、指導委員、指導補助員、協力者の方々、講師の先生方、趣旨をご理解いただき協賛いただいた企業や個人の支援者、物心両面で支えていただいた石巻専修大学に心から感謝したい。『耕人塾』を継続することは多大なエネルギーを必要とするが、東日本大震災から復興し、世界に誇れる石巻地域を創っていくためには、若い人材を育成しなければならないと痛感している。今年度の反省を生かし、来年度は班活動や実践活動等も取り入れ、さらに発展させていきたいと思っている。

ご協力いただいた多くの方々に感謝し、報告としたい。

### <『耕人塾』関係者名簿（敬称略）>

#### ○ 運営委員会

※ 運営委員会は、『耕人塾』の方針及び賛助金等について決定し、広報活動及び会計処理に当たる。

|       |                   |             |
|-------|-------------------|-------------|
| 横江 信一 | 東松島市教育委員会学校教育課長   | 学校関係（運営委員長） |
| 山崎 省一 | 石巻専修大学人間学部教授（学部長） | 大学関係        |
| 田中 秀典 | 石巻専修大学人間学部客員教授    | 大学関係        |
| 千葉 純  | 元東松島市立矢本第二中学校校長   | 学校関係        |
| 齋藤 幸男 | 宮城県石巻西高等学校校長      | 学校関係        |
| 舩田 育久 | 気仙沼市立大谷中学校校長      | 学校関係        |
| 末永 勘二 | 末永海産株式会社代表取締役     | 企業関係        |
| 井上 一  | 株式会社井上代表取締役       | 企業関係        |
| 千葉 克彦 | 元石巻市立石巻中学校副参事兼事務長 | 会計担当        |
| 千葉 一夫 | 塩竈市教育委員会指導主事      | ホームページ担当    |
| 相澤 浩美 | 石巻専修大学人間学部教育支援係主任 | 庶務          |

○ 指導委員会

※ 指導委員会は、講師との連携を図り、授業を構成し、中・高校生の指導に当たる。

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 稲辺 正浩 | 宮城県総合教育センター指導主事（委員長） |
| 宮崎 敏明 | 東松島市立宮戸小学校教諭（副委員長）   |
| 平塚真一郎 | 石巻市立大須中学校教諭（副委員長）    |
| 酒井 勝則 | 東松島市立矢本西小学校教諭        |
| 村岡 太  | 石巻市教育委員会指導主事         |
| 若生 孝之 | 石巻市教育委員会社会教育主事       |
| 鈴木 克範 | (株)カクト鈴木商店営業部長       |
| 中鉢 佳子 | 石巻市立石巻中学校教諭          |
| 本田美希子 | 石巻市立二俣小学校教諭          |
| 三浦 美紀 | 石巻市立蛇田中学校教諭          |
| 阿部 宏弥 | 石巻市立中里小学校教諭          |
| 大友 佳也 | 石巻市立鹿妻小学校教諭          |
| 畠中 隆廣 | 石巻市立蛇田中学校教諭          |
| 菅井 龍成 | 石巻市立蛇田中学校教諭          |
| 須田 佑介 | 石巻市立鹿妻小学校教諭          |
| 菅井 秀成 | 東松島市立大曲小学校教諭         |

【指導補助員】

|       |                |
|-------|----------------|
| 小原 真駿 | 石巻専修大学理工学部 4 年 |
| 中澤 一輝 | 石巻専修大学理工学部 4 年 |
| 竹村専太郎 | 石巻専修大学理工学部 2 年 |
| 津田 悠杜 | 石巻専修大学理工学部 2 年 |
| 佐藤 礼佳 | 石巻専修大学経営学部 3 年 |
| 和泉恵梨香 | 石巻専修大学経営学部 3 年 |
| 太田 廉  | 石巻専修大学経営学部 3 年 |
| 末永 恵奈 | 石巻専修大学理工学部 2 年 |

【協力者】

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 石田 邦子 | 東松島市教育委員会いじめ相談員 |
| 志小田美弘 | 宮城県仙台教育事務所副参事班長 |
| 新井 雅行 | 名取市立みどり台中学校教頭   |
| 今野 幸夫 | コンノデンキ店主        |

Human Resource Development and Regional Contribution by “Kojin-juku” (2<sup>nd</sup> term)

Tamio KIMURA

*Department of Human Education, Faculty of Human Studies, Ishinomaki Senshu University,  
Ishinomaki 986-8580, Japan*

資 料

けいはつろく はしもとさない  
『啓発録』（橋本左内）

H25.5.18(上)木村民男記

幕末の志士に橋本左内（1834～1859 年）という人がいます。越前国（福井県）に生まれ、15 歳の時に大阪に出て、適塾（てきじゅく）で医者緒方洪庵（おがたこうあん）等に師事し、蘭方医学を学びます。その後、水戸藩の藤田東湖（ふじたとうこ）、薩摩藩の西郷吉之助（さいごうきちのすけ）、熊本藩の横井小楠（よこいしょうなん）らと交流し、福井藩主の松平春嶽（まつだいらしゅんがく）に側近として登用され、藩医や藩校（明道館）学監心得（がっかんこころえ）となります。14 代将軍を巡る将軍継嗣（けい）問題では春嶽を助け、一橋慶喜（ひとつばしよしのぶ）擁立運動を展開し、幕政改革を訴えました。また、幕藩体制は維持した上で西欧の先進技術を導入するという開国論を展開しました。しかし、安政の大獄で捕縛（はく）され、斬首（ざんしゅ）となりました。享年（きやうねん）26 歳でした。

橋本左内が数え年 15 歳（満 14 歳）の時に自分の生き方の指針として記した 5 か条が「啓発録」です。今の中学校 2 年生の時に書いた左内の「志」とはどんなものなのでしょうか。

- ①「稚心（ちしん）を去る」：稚心とは、子供じみた心のことである。12, 3 歳になったならば、自分の好きな遊びにばかり熱中し、安楽なことばかり追いかけ、親の目を盗んで勉強や稽古事をおろそかにし、いつまでも父や母に甘えていてはならない。私は立派な武士になるために、稚心を去らねばならないと考える。
- ②「氣を振（ふ）るう」：氣とは、人に負けまいと思う心、すなわち負けじ魂であり、努力もしないで負けるということは恥ずかしいことだと自覚し、悔しく思っテ頑張ろうとする心のことである。自分の士気を奮（ふ）い起し、人には負けぬという決意を忘れぬことが大切である。
- ③「志（し）を立つ」：志とは、自分の生き方の決意を固めるということである。志を立てるには、聖賢（せいけん）の教えや歴史の書物を読んで、その中から深く心に感じた部分を書き抜いて壁に貼り、いつもそれを眺めて自己を省みて、自分の足らぬところを努力することが大切である。そして、自分が少しずつ前進するのを楽しみとすることである。
- ④「学（がく）に勉（め）む」：勉学とは、優れた人物の立派な行いを習い、自らもそれを実行し、自己の力を出し尽くして目的を達成するまで続けるということである。それには、書物を読んで自分の知識を深めるだけでなく、忠孝（主君への忠義と両親への孝行）の精神を養うことと文武（知識を広め、心胆を練る）の道を修行することが大切である。
- ⑤「交友（こうゆう）を択（えら）ぶ」：交友とは、自分が交際する友人のことであり、友人には益友（えきゆう）と損友（そんゆう）とがあるからその違いを見極めて選ぶことが必要である。益友（えきゆう）には自分から積極的に交わり、大切にすべきである。損友（そんゆう）がいたら、自分の力でその人の良くない面を正しい方向へ導いてやらねばならない。

「啓発録」を短くまとめました。満 14 歳の橋本左内がどんな人間になろうとしたのか考えてみてください。そして、自分はどんな人間になったらよいのかを考えてみてください。

第 1 号

平成 25 年 5 月 18 日 (土)

# 『耕人塾』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 『耕人塾』で目指しているもの

昨年度に引き続き、今年度も『耕人塾』をスタートすることができました。ご尽力いただきました多くの方々に心から感謝申し上げます。

『耕人塾』で目指しているものは、石巻地域の中・高校生が、自分はこんな人間になりたいという高い志を持ち、多くの人との出会いの中で自分を耕し、自分を高め、世のため人のために働く人間を育てるということです。そのためには、徳を養い、心と体を鍛え、知を高めることによって自己の「人間力」を磨いていく必要があります。昨年度の活動を土台として、特に今年度は 1 泊 2 日の宿泊研修等も取り入れ、より充実した内容にしていきたいと思っています。『耕人塾』が石巻地域の人材育成の拠点になることを願っています。

『耕人塾』では「人間力」を磨くために、次の 3 点を指導の方針にしています。

- ① 社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動を通して、「人間力」を向上させる。
- ② 「文・武・楽(習・道・スポーツ等)」の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。
- ③ 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

そのために次の 10 項目を柱に、講話や実践活動を体験する中で、「人間力」を向上させていきたいと思っています。

- ① 志を高くもち、「人間力」を磨くために自ら努力する。・・・自主・自律
- ② 時間や約束を守り、場に応じた服装や言葉遣いをする。・・・場に応じた言動
- ③ 心と姿を整え、礼節を重んじ、品位を身に付ける。・・・姿勢・礼節・品位
- ④ 相手の話を目と心で聴き取り、自己の成長につなげる。・・・感性を磨く
- ⑤ 有事の際には正直に、誠実に、勇気を持って行動する。・・・正直・誠実・勇気
- ⑥ 感謝の気持ちで相手より先に挨拶をし、和顔愛語で人に接する。・・・感謝・挨拶・笑顔
- ⑦ 異なる立場や意見を尊重し、自分の考えを積極的に伝える。・・・自己表現
- ⑧ 何事も主体的に考え、自己判断・自己責任を基本とする。・・・自己判断・責任
- ⑨ 素直で謙虚な気持ちで学び、思いやりや奉仕の心を形で表す。・・・素直・謙虚・奉仕
- ⑩ 苦しさから逃げず、逆境を乗り越える勇気と忍耐力を身に付ける。・・・勇気と忍耐力

10 項目の柱を全部実践するのは難しいことですが、一つ一つの項目は迷ったり悩んだりした時の指針になります。この中からいくつかを選び、自分の言葉を付け加えて各自の生活の目標にしてください。日々の実践が必ずあなたを成長させてくれます。勉強が忙しかったり部活動で疲れたりすることもあると思いますが、12 回の研修会の皆勤を目指して頑張りましょう。

「立志」：書道の言葉に「意先後筆(いせんごひつ)」という言葉がある。何をどのように書くかという自分の意志や思いが先で、筆は自然に後からついてくるという意味だそう。人生も同じで、自分はどのように生きるかという目標や目的をしっかりと定めて、それを成し遂げようと決意すれば、おのずと自分のやる事が明確になるのだと思う。若い時に志を立てて努力することが、その後の人生を充実したものにさせてくれる。耕人塾で自分の志を確立してほしい。

第2号

平成25年6月15日(土)

# 『耕人』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 『耕人塾』の活動方針について

『耕人』第1号で、『耕人塾』の活動方針を3点示しました。今回は、この3点の活動方針について、具体的に述べたいと思います。

### ① 社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動を通して、「人間力」を向上させる。

第1回の研修会で橋本左内の「啓発録」から志を立てることの大切さと「一灯照隅」という言葉から、周りを明るく照らすためには自分自身が輝くことが大切だということを学びました。各自がつかんだ講師の思いや願いについて班別の討論をし、それを各班の代表者に発表してもらいました。各自が学んだことを次の研修会までどのような実践活動に結び付けたか楽しみです。大切なことは、自分の心に自ら灯を点し、主体的に取り組むことであり、日々の実践に生かしていくことです。その繰り返しが「人間力」の向上につながると考えています。

### ② 「文・武・楽(習・遊・スポーツ)」の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。

「文武両道」という言葉があります。昔は、「文」は学問、「武」は「武道」だったのですが、今は「武」は武道を含めたスポーツ全般ととらえられています。しかし、精神を鍛えることを主とする武道と楽しさやレクリエーション的要素が強いスポーツや趣味の「楽(く)」を分けた方が良いと思っています。「楽(く)」とは、心身の躍動や喜怒哀楽の素直な表現、生活の中での楽しさや潤いの追究です。スポーツの中には武道的要素を取り入れている種目もありますが、「文・武・楽」三道の視点からとらえるとすっきりします。そして、この三つは人間的な幅と深さを身に付けるためには、どれも大切なものだと考えています。

### ③ 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

1922年(大正11年)に日本を訪れたアインシュタイン(ノーベル物理学賞受賞者)は、「日本人の素晴らしさは、きちんとしたしつけや心の優しさにある。日本人はすべての物事に対して物静かで、控えめで、知的で、芸術好きで、思いやりがあり、個人に必要な謙虚さと質素さを兼ね備えている」と絶賛しています。そのような日本人の精神の根底には、縄文時代から自然に対する畏敬の念をもち、人々が互いに協力し合って生きてきた日本人の「和」のDNAが流れているのだと思います。その上に、武士道によって意志力を自律心まで高め、人の生きる倫(みち)を大切にしてきた精神文化や俳句・短歌、茶道・華道などを生活の中に取り入れてきた芸術化の歴史があります。『耕人塾』では、日本の伝統文化の講話や体験等を通して、その良さや深さを実感し、自然や郷土を愛する心を育て、日本人としての礼儀作法を身に付けていくことが国際社会に貢献し、国際社会をリードする人材育成につながると考えています。

「継続は力なり」：志が定まったならば、それを実践に移すための計画が必要です。そのためには、長期・中期・短期の目標を決めることです。短期目標は1か月とすると、それを達成するための1週間の計画と1日の計画が必要です。例えば、朝1時間早く起きて漢字10個覚えるとします。1週間で70個、1か月で300個、1年で3650個の漢字を覚えることになります。現在の常用漢字は2136字なので、かなり難易度の高い漢字もマスターできることになります。正に「継続は力なり」です。皆さんも何か始めてみませんか？早起きは三文の徳です。

## 第3号

平成24年7月20日(土)

## 『耕人塾』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 「人間力」を磨くということ

『耕人塾』では、志を高くもった中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育てることを目的にしています。「人間力」を磨くためには、「徳」を養い、「心と体」を鍛え、「知」を高める必要があります。『耕人塾』では「人間力」を「徳・体・知」の面から次のように捉えています。

「徳」とは、人としての価値のある行いや精神の修養によって得た優れた品性のことです。すべての人は心の中に「徳」をもっていると言われていています。自分の中にある「徳」を見つけ、自らの意志で自分の「徳」を養い育てていく必要があります。具体的には誠実・真心・礼儀・使命感・規範意識・親切・思いやり・謙虚・感謝などの徳目を日々の生活の中で意識して実践していくことです。例えば、大事なことで失敗してしまったとします。そのようなときは弁解をせず、正直に誠実に理由を話し、素直に謝ることが大切です。今後そのような失敗をしないよう改めれば、一步成長したことになるのです。思いやりや感謝の心を形に表すことも自分の成長につながります。そのような普段の積み重ねが「徳」を養うことにつながるのです。

「体」とは、心と体のことです。「体」というと肉体のことだけが優先されてしまいがちですが、心と体は深いつながりがあり、表裏一体であると考えます。心身の健康を保ち、体力や運動能力を高めるためには心と体を鍛え、食育も含めて基本的な生活習慣を整えることが大切です。例えば、決められた時間に自分で起きる、心身を鍛えるため運動を継続する、忍耐力を養うため高い目標を設定して挑戦する、普段の基本的な生活習慣を見直し、日々の生活の中で規則正しい生活を実践していくということです。特に、人生の成長期にある中・高校生時代は心身を鍛えることが一生の財産になります。

「知」とは、知識や技能、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などのことです。特に、中・高校生の時期に自分の「志」をしっかり立て、目標達成に向けて一心不乱に勉強に打ち込むことが大切です。この時期の努力が一生の土台になるからです。そのためには、自分はどのような生き方をしたいのかという「志」が大切になってきます。目標とする生き方を目指すためにどのような勉強をどの程度やらなければならないかを自覚し、具体的な計画を立てて日々努力することです。環境の変化によっては自分の進路を変えざるを得ないこともあります。しかし、「志」を立て、その時々目標に向かって努力したことは決して無駄にはなりません。

「人間力（徳・体・知）」を磨き、地域や社会に貢献できる人間になるよう努力しましょう。

「逆境は順境也」：世の中は思い通りにならないことが多いものです。どうしても自分だけがこのような目に合わなければならないのかと思うようなこともあります。時には、自分の努力ではどうにもならない場合もあります。そのようなときはどうすればよいのだろうか。私は、自分に与えられた境遇は天命だと思って受け止めるようにしています。そして、その事実に対して、正直に、誠実に対応するしかないと思っています。そのように思っ努力していると、いつしか霧が晴れるように道が開ける時が来ます。そして、その時の苦労が自分を成長させてくれたのだと後で気づきます。逆境は順境だったと思える時が必ず来ると信じています。

第4号

平成25年8月17日(土)

# 『耕人』

『耕人塾』

塾長 木村民男

## 実践活動『挨拶・清掃・ゴミ拾い』について

平成25年度『耕人塾』研修の目玉として、8月17日(土)、18日(日)の両日、石巻西高校を会場に宿泊研修を行うことにしました。その中で中心的な活動が「挨拶・清掃・ゴミ拾い」です。どうしてこの三つが大切なのかを説明したいと思います。

「挨拶」の「挨」とは、押し開く、相互に近づくという意味があり、「拶」は迫るという意味があります。どちらも自分から心を開いて近づくという意味になります。先日ある人から次のような話を聞きました。「毎朝北上川の土手を散歩しているのですが、自分から挨拶するようにしています。最近は何の人も挨拶を返してくれるようになりました。先日、中学生らしい男の子が走って私の横を通り過ぎるときに元気な声で『おはようございます』という挨拶をして通り過ぎて行きました。爽やかな風が通り過ぎたみたいで、一日中温かな気分でした。」挨拶は人の心を温かくしてくれるのですね。自分から、相手の心に届く挨拶をしたいですね。

「清掃」は、お世話になったものへの感謝の気持ちを表すことだと思っています。子供の頃、「借りたものは借りたときよりもきれいにして返しなさい」とよく言われました。その頃はなぜそうしなければならないのかよく分かりませんでしたが、最近になってその大切さがやっと分かってきました。今日の「掃除を極めよう」はトイレ掃除ですが、トイレが一番汚いところというイメージがありますが、人間の排泄物を処理する最も大切な場所の一つです。トイレ掃除を、心を込めてやった後は爽やかな気持ちになると聞いたことがあります。トイレ掃除をしっかり学んで、家でもやってみましょう。「その家の様子は玄関とトイレを見れば分かる」と言われたことがあります。『耕人塾』で学んでいる皆さんがまず実践してみましょう。

「ゴミ拾い」について話します。十年ほど前、川開き祭り花火大会の次の朝、生徒と教職員で街の中のゴミ拾いをやろうと提案したら、60名を超える生徒が集まってくれました。「他人が捨てたゴミを中学生に拾わせることはどうなんだ」という声も聞かれましたが、次の年も実行しました。そしたら200人を超す生徒が集まってくれました。3年目は、J Tの方や街の人たちも一緒に拾ってくれるようになりました。「他人が捨てたゴミを拾う必要があるのか？」という論理は一見正しいようですが、人間が生きているということは多くの命をいただいていることであり、多くの人の支えがあって自分の今があるのだと思います。そうであるならば、人のために自分にできることをやるということで、プラスマイナスゼロになるのだと思います。できれば、自分の毎日の実践がプラスになるような生き方をしたいですね。

たった1泊2日の研修ですが、塾生の皆さんにとって一生の財産になる体験だと思います。「挨拶・清掃・ゴミ拾い」を極めて、「挨拶・清掃・ゴミ拾い」の達人になりましょう。

今回の研修の「災間に生きる」では、東日本大震災から何を学んで、これからの生活にどう生かすかということを考えてみましょう。また、「植樹」では、復興拠点の一つになっている渡波の明神社に復興祈念の植樹をします。10年後、20年後、皆さんが植えた木が大きく成長し、復興のシンボルの一つになると思っています。植樹をすることで、自然に生かされていることに感謝し、自然と共に生きていくことの大切さを実感してほしいと思っています。

## 第5号

平成25年9月21日(土)

## 『耕人塾』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 『耕人塾』宿泊研修を終えて

8月17日(土)、18日(日)の両日、石巻西高校を会場に『耕人塾』初の宿泊研修を行いました。塾生14名、指導者16名、指導補助員1名、運営委員4名、講師15名、小学生及び保護者20名、見学者・その他5名、計述べ70名以上の参加をいただいて、充実した研修を行うことができました。また、保護者や知人など7名の方からジュースやドーナツなどの差し入れをいただきました。お盆明けのご多用のところ参加していただいた多くの方々に心から感謝申し上げます。特に、会場になった石巻西高校の齋藤校長先生はじめ、先生方には全面的なご協力をいただきました。重ねて御礼を申し上げます。

さて、今回の宿泊研修のねらいを「講話や体験活動を通して、『人間力』を向上させ、人間的な幅と深さを身に付けさせる」「合宿生活を通して、塾生の相互理解を図りながら、社会貢献への高い志を持たせる」とし、実践目標を「当たり前のことをよりすばらしく」、「自ら動く」、「かかわる」としました。研修内容を振り返って感じたことを書かせていただきます。

①【挨拶を極めよう】井上一氏(井上代表取締役)の講話の後、6名の講師が3グループの中に入り、実践指導をしていただきました。立った時の姿勢、お辞儀の仕方、「はい」「おはようございます」「ありがとうございました」という挨拶の基本、声の大きさ、間など具体的な指導の後、グループ毎の成果発表と指導者の飛び入り参加に大きな拍手が湧きました。

②【清掃を極める】末永勘二氏(末永海産代表取締役)の「なぜトイレ掃除なのか」という講話とDVD鑑賞の後、男女に分かれて石巻西高校部室トイレの清掃をしました。便器を素手で磨くことは初めてのことで戸惑いもありましたが、末永さんの姿を見てどの塾生も進んでトイレ掃除に取り組みました。魂を込めて掃除したトイレは2時間後には見違えるほどきれいになりました。鍵山氏の「便器を磨くことは心を磨くことです」という言葉に感動しました。

③【防災教育】石巻西高校齋藤幸男校長先生から「災間を生きる」という題で講話をいただきました。DVDを使つての分かりやすい講話に、改めて防災教育の大切さを再確認しました。

④【キンボールを楽しもう】平塚真一郎先生(宮城県キンボール連盟副会長)と小学生の協力により、楽しいひと時でした。小学生から中・高校生が教えられる風景もいいなと思いました。

⑤【ゴミ拾いを極めよう】5時から6時半まで石巻西高校・有明周辺を1周しゴミ拾いをしました。早朝の清々しい空気を吸いながら街をきれいにするのは気持ちのいいものでした。

⑥【社会貢献作業(植樹)】黄本富士子さん(スマイルシード理事長)他3名の指導の下、渡波大宮神社境内にクリやクヌギなどの広葉樹30本を心を込めて植樹しました。5年後が楽しみです。

⑦【合宿まとめ】パソコンを使いプレゼン発表をしました。短時間でよくまとめました。

年間計画で宿泊研修を実施することにしたものの、会場のこと、資金のこと、参加者のこと、指導者のこと、講師のこと等々課題山積でした。多くの方々のご支援ご協力のお陰で、大きな成果を残して終了することができました。心から感謝申し上げます。目標に挑戦する場合、必ず大小の壁にぶつかります。今回は「目的を達成するためにどうすればよいかを真剣に考え、強い情熱をもって念じ続ければ、必ず道は開ける」という言葉が私の大きな支えになりました。

第6号

平成25年10月19日(土)

# 『耕人』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 『耕人塾』実践10項目について

「耕人」第1号で示した「実践10項目」の具体的な実践方法をまとめました。それぞれの項目をじっくり読み、『耕人塾』ではどのような「人間像」を目指しているのかを考えてみてください。

- ① 志を高くもち、「人間力」を磨くために自ら努力する。  
若い時の高い「志」は人生の指針になります。「人間力」を磨いて達成しよう。
- ② 時間や約束を守り、場に応じた服装や言葉遣いをする。  
信頼を得るには小さなことをしっかり守り、場に相応しい言動をしよう。
- ③ 心と姿を整え、礼節を重んじ、品位を身に付ける。  
伝統文化や武道を学んで、心と姿を正し、礼節と品位のある人になろう。
- ④ 相手の話を目と心で聴き取り、自己の成長につなげる。  
相手の伝えたいことを感じ取り、価値あるものを見つけ、自己成長につなげよう。
- ⑤ 有事の際には正直に、誠実に、勇気を持って行動する。  
一大事に遭遇したときは、正直に真心と勇気を持って行動できる胆力を養おう。
- ⑥ 感謝の気持ちで相手より先に挨拶をし、和顔愛語で人に接する。  
一期一会の出会いに感謝して自分から挨拶をし、笑顔と優しい言葉をかけよう。
- ⑦ 異なる立場や意見を尊重し、自分の考えを積極的に伝える。  
多様な意見は議論の幅を広げます。失敗を恐れず自分の考えを積極的に話そう。
- ⑧ 何事も主体的に考え、自己判断・自己責任を基本とする。  
どんな場合でも自ら考え、判断・行動し、その責任は自分でとる覚悟を持とう。
- ⑨ 素直で謙虚な気持ちで学び、思いやりや奉仕の心を形で表す。  
自分を成長させるために謙虚に学び、思いやりの心で奉仕活動をしよう。
- ⑩ 苦しさから逃げず、逆境を乗り越える勇気と忍耐力を身に付ける。  
人生には多くの苦難があります。その壁を乗り越える勇気と忍耐力を養おう。

これらの「実践10項目」すべてを完全に実践するということは難しいことです。普段の生活の中で1つでも2つでも実践することによって、これまでの自分の生活が変化し、必ず成長につながっていきます。また、困難に遭遇した場合に、何を基準に判断し、行動したらよいかという指針になるはずです。この「実践10項目」の中から自分の目標を探して自分の言葉に書き直し、机の前に貼って毎日実践し、その結果どうであったかを反省することが大切です。

『耕人塾』宿泊研修の「挨拶を極めよう」で「ABCを大切にする」という話がありました。「Aは当たり前のことを」、「Bばかにしないで」、「Cちゃんとする」ということでした。「清掃を極めよう」でも同じような話がありました。「誰にでもできることを誰にもできないくらいに一生懸命やる」という言葉もあります。どちらも当たり前のことを大切に、誠意をもって一生懸命努力することで「人間力」が磨かれ、自己成長につながっていくのだと思います。

第7号

平成25年11月16日(土)

『耕人塾』

『耕人塾』

塾長木村民男

「諦めなかった大空への夢」

11年がかりで夢を叶えたANA女性パイロット小林郁子さん

小林郁子さんは24歳の時に「絶対パイロットのなる」と決めてから11年がかり、現在エア・セントラル副操縦士として活躍しています。ANAグループには約2千名の操縦士がいますが、女性は6名だけで小林さんはその第1号だそうです。小林さんの言葉を要約しました。

飛行機の操縦士を目指したのは、マスコミ業界で働いていた時、飛行クラブに所属している友人から、小型機のフライトに誘われたのがきっかけです。たった2,3分の体験でしたが「絶対パイロットになるんだ」と思うようになりました。自力で免許を取得するためには1千万円のお金と猛勉強と厳しい訓練が必要です。休日返上で働いて資金をため、寸暇を惜しんで勉強をし、厳しい訓練にも耐え抜きました。本当にやろうと思えば、誰にでもできることだと思うんです。「ああなりたい」とか「こうなれたらな」と口にされる方は大勢いらっしゃると思います。でも行動に移さない方が多いんです。だから「本当になりたいと思っているの?」と感じてしまうんです。「こうなりたい」という思いが本当になれば、そのように自分で行動していくと思うんです。そうしなければただの願望で終わってしまうし、夢に近づくことだってできないと思います。

だから特別なことは何も必要なくて、夢をかなえるために自分が今何をしていかなきゃいけないか。それを自覚して行動に移せる人は夢を実現できると思います。もちろん、そうなるためには大変なこともいっぱいありますが、それを乗り越えられる精神力と行動力、そしてその夢に対する思いがどれだけ強いかなですね。

私の部屋に、「最初からうまくやれる人はいないんだからさ」と書かれたポストカードが置いてあります。やっぱり初めから成功する人なんていないんです。うまくいかず落ち込んだりもするけれど、落ち込むだけではだめなんですね。どうしたらうまくできるかを常に考える工夫をしていかなければいけないんです。

もう一つ大切なのは、諦めないことです。何をやるにせよ本人が「もうダメだ」と思った時点で終わりなんです。パイロットとして危険なこともたくさんありますが、事故が起きても極限状態の中で被害を最小限に食い止める最大限の努力をすることがパイロットの責務です。これからも困難なことが沢山あると思いますが、何があっても屈することなく、夢を追い、自分自身に挑み続ける人生を送りたいと思っています。(「致知」2008.7月号)

私にも夢がありますが、小林さんの言葉を聞いて、まだ志の強さが足りないのだと感じています。「夢は叶えるためにある」という言葉があります。皆さんがこれからどんな夢を持ち、それを実現させるためにどのような努力していくかが楽しみです。

「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」この言葉は、松井秀喜の恩師である山下智茂さんの言葉として、今でも石川県星稜高校野球部のロッカーの壁に貼ってあるそうです。まず志を高く持ち、行動し、それを継続していくことが、自分の習慣や人格、運命までも変えていくのだと思います。

第8号

平成25年12月21日(土)

# 『耕人』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 「武士道」著述の経緯と新渡戸稲造という人物について

新渡戸稲造が「武士道」を著述した経緯は、ベルギーの法学者ラブレーから「宗教教育がない日本で、どうして子孫に道徳教育をするのか」と問われたのがきっかけでした。その時は即答できなかったのですが、新渡戸は自分の考え方や善悪の観念を育んできたものは武士道であったことに思いあたりました。そして、ラブレーと妻に大和心を説明するために、ヨーロッパの歴史や文学から類似の例証を上げ、1899年12月英文で「武士道」を著したのです。私が特に注目するのは、新渡戸が洗礼まで受けた熱心なキリスト教徒であるということです。クリスチャンである新渡戸が封建制度を土壌として生まれた「武士道」を書いたからこそ、客観的な見地から冷静に大和心を掘り下げているのだと思います。

大阪市立大学の佐藤全弘氏は新渡戸の72年の生涯を三つに分けています。①人と成る(1862-92)(新渡戸稲造は文久2年、南部藩士新渡戸十次郎の三男として誕生。10歳で東京英語学校、14歳で札幌農学校二期生として内村鑑三らとともに入学。18歳で卒業、東京大学入学時の問答で「われ太平洋の橋とならん」と答弁。21歳で渡米し、アメリカ・ドイツの大学で学んだ後、28歳のときアメリカ人マリー・エルキントンと結婚して帰国するまでの29年間)。

②日本のために尽力(1891-1919)(帰国後ただちに札幌農学校に奉職。32歳のとき、働く青少年のための「遠友夜学校」を開く。過労のため36歳で農学校を辞任し、渡米して静養中に「武士道」を書く。33歳のとき台湾総督府勤務、台湾糖業改良の基礎を築く。41歳で一高校長兼東京帝大教授に就任、全人教育により多くの人材を育てる。東京女子大学初代学長までの28年間)。

③世界のために尽力(1919-33)(57歳から国際連盟事務局次長として7年間勤め、アインシュタインらと国際理解と平和のため尽力。軍閥を批判して右翼の迫害を受ける。71歳のときアメリカで1年間に百余回の講演を行う。72歳のとき帰国し、カナダでの第五回太平洋会議に出席、会議終了後発病し、10月16日ビクトリア市の病院で逝去、享年72歳、多摩墓地に葬られるまでの14年間)。

新渡戸の生き方は、自らの立身出世のためではなく、人から求められてその任についていること、多くの要職を誠意と情熱と忍耐を持って成し遂げていること、一貫して自由と平和と民衆のために尽くしていることから多くの人々に愛され尊敬されています。特に、著書「自警録」の中で、英語で初めて演説するときの緊張と不安で苦痛の極地に達し、怖じ気づいてガタガタ震える様を正直にさらけ出し、それをどのように乗り越えたかを詳細に書いています。新渡戸は誠実な人であると同時に、自分を飾らない真っ正直な人であり、その生き方に心を打たれ、尊敬の念を一層強くしました。日本を代表する本です。是非読んでみて下さい。

新渡戸稲造の印象に残っている言葉を三つあげます。「①自分の使命を自覚し、迷わず即実行すること。そして、成し遂げるまでやりぬくことである。②世に出る年齢に早過ぎることなし。遅過ぎることなし。その人の潮時がある。③自分に与えられた環境は天命である。全てを受け入れ、正直に誠実に全力を尽くすことである。」好きな言葉はどれですか？

## 第9号

平成26年1月25日(土)

## 『耕人塾』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 「心が変われば行動が変わる」

新年おめでとうございます。今年は塾生一人一人の成長につながるよう、新たな抱負に向かって自主と実践を大切にする1年にしてほしいと思います。

昨年暮れに星野仙一著の「星野流」という本を読む機会がありました。実は、星野仙一という監督を私はあまり好きではありませんでした。ところが、「星野流」の本を読んで目からうろこが落ちました。感性が豊かで、選手一人一人のことをよく考え、厳しく指導をするときもありますが、落ち込んでいる選手には優しく思いやりの言葉をさりげなくかけて励ましているということが分かったからです。そのような監督だからこそ東北楽天を優勝に導くことができたのだと思います。何事も先入観で人を判断してはいけないと深く反省しました。

さて、この本に出ていた下の言葉は「耕人」第7号でも紹介しましたが、今回はもう少し掘り下げたいと思います。

|         |        |
|---------|--------|
| 心が変われば  | 行動が変わる |
| 行動が変われば | 習慣が変わる |
| 習慣が変われば | 人格が変わる |
| 人格が変われば | 運命が変わる |

この言葉は、松井秀喜の恩師と知られている石川県星稜高校野球部総監督の山下智茂さんの手による「四か条の教え」で、今でも野球部のロッカーに掲示されているそうです。この中で最も大切なのが「心が変わる」ということだろうと思います。私たちはそれぞれに夢があり、目標があります。しかし、「そうなれたらいいな」とか「そうになりたいな」という漠然とした夢であり、目標であることが多いように思います。このような気持ちでは「心が変わる」に結びつかないのだろうと思います。自分の心を変えるためには夢や思いを「志」まで高め、目標や願いを「決意」にまで変えていく必要があります。

米大リーグヤンキースで活躍しているイチロー選手は野球少年だったころから「将来プロ野球で活躍する」という夢を持ち、サッカーで活躍している本田選手も「僕の夢はACミランで10番をつけること」と心に決めていたそうです。そのような強い「志」や固い「決意」が「心が変わる」ことであり、それが「行動が変わる」に結びつくのだろうと思います。新年にあたり、皆さん一人一人の夢や目標が「志」や「決意」になり、明日からの行動が変われば、それが習慣となり、人格や運命をも変えていくことに結びつくと思っています。私も新年にあたり新たな「志」を立てました。皆さんと共に頑張っていきたいと「決意」を新たにしています。

中国の古典である『大学』に「格物致知 誠意正心 修身齐家 治国平天下」という言葉があります。自分の持っている良知を真心と正しい心で発揮し、自分の身を修め、家庭を整え、そのような心で国を治め、天下を平和にしていこうという意味です。まず、自分の良さを見つけて正しく発揮し、それを進化発展させていくことが『耕人塾』で目指す「人間力」を磨くことにつながると考えています。いい年にするようまず自分が人のために行動することですね。

第10号

平成26年2月15日(土)

# 『耕人』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 「武士道」とは何か

『耕人』第8号で、新渡戸稲造が「武士道」を著わした経緯について書きました。ここでは、「武士道とは何か」という項で、新渡戸が何を伝えたかったかを書きたいと思います。

「武士道は、『日本の土壌に固有の華』、『力と美を兼ね備えた生きた対象』、『道徳的雰囲気』の薫りを放ち、今も私たちをひきつけてやまない存在である。武士道とは、武士が守るべきものであり、道徳的徳目の作法である。それは、成文法ではなく口伝(くでん)や格言によるものではあるが、それだけに、実際の行動にあたってはますます強力な拘束力を持ち、ひとびとの心に刻み込まれた掟である。それは何十年、何百年にもわたって武士の生き方の有機的産物であった。」と述べています。新渡戸は、自分の育った環境や諸外国を回る中で、日本の伝統的な風習やしきたりのすばらしさを実感し、その土壌は「武士道」がつくりだしていると確信を持って述べています。

「武士道の源を探る」では、「仏教と神道(しんとう)が武士道に与えたもの」と題して次のように述べています。「仏教は武士道に、運命に対する安らかな信頼の感覚、不可避(ふかひ)なものへの静かな服従、危険や災難を目にしたときの禁欲的な平静さ、生への悔蔑(ぶべつ: あなどてないがしろにすること)、死への親近感などをもたらした。特に、禅は『沈思黙考(ちんしもくこう)により、言語表現の範囲をこえた思考の領域へ到達しようとする人間の探究心を意味する』その方法は黙想であり、そのめざすところは森羅万象の背後に横たわっている原理であり、でき得れば『絶対』そのものを悟り、『絶対』と、おのれ自身を調和させることである。」また、「神道の教義によって、主君に対する忠誠、先祖への崇敬(けうけい: あがめうやまう)、孝心(こしん: 義経を行くそうとする心)などが教えられた。そのため、サムライの傲岸(ごうがん: おごりたかぶってへりくだらないこと)な性格に忍耐力が付け加えられたのである。また、神道の教義は、日本人の感情生活を支配している二つの特徴、すなわち愛国心と忠誠心をあわせもっている。」と、仏教と神道が武士道に与えた影響を述べています。

孔子・孟子・王陽明(おうようめい)からの影響については次のように述べています。「厳密にいうと、道徳的な教義に関しては、孔子の教えが武士道のもっとも豊かな源泉となった。孔子が述べた君主、父子、夫婦、兄弟、朋友(ほうゆう)の関係は、日本人の本能と結びつき、冷静、温和にして世才があり、貴族的かつ保守的な語調は、武士統治者の不可欠のものとして適合した。孔子について、孟子の力のこもった人民主義的な理論は、思いやりのある性質をもった人びとにことのほか好まれた。これらの思想は、単なる知識としてではなく、王陽明が唱えた『知行合一(ちこうどういつ: 知と行は一致)』へと結びついていった。」と述べています。

難しい表現もありますが、一つ一つの意味を考えながら、丁寧に読んでいくと新渡戸稲造が「武士道」をどう捉えているかが分かってきます。休みの日にでも読んでみませんか？

「武士道の基本原理」になっている「君主、父子、夫婦、兄弟、朋友の関係」「冷静、温和、世才」や「恕(じょ)の心」「惻隱(そくいん)の情」は孔子・孟子からの影響を受け、「知行合一」は王陽明から影響を受けたと新渡戸は言っています。このように「武士道」は多くの思想や教義から影響を受け、長い歴史の中で日本の『武士道』として昇華していったのだと思います。

第 11 号

平成 26 年 3 月 15 日 (土)

# 『耕 人』

『耕人塾』

塾長木村民男

## 『耕人塾』塾生に贈る言葉

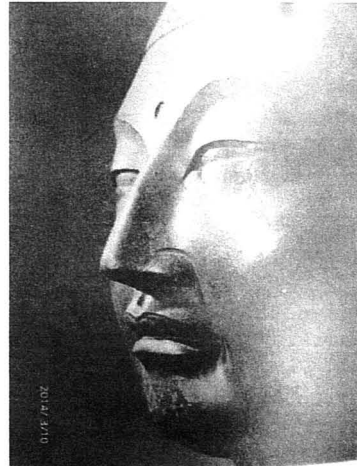
平成 25 年度の『耕人塾』も本日の第 11 回研修会で終了になります。学校行事等で忙しい中、自らの人間力を磨くためによく頑張りました。『耕人塾』で磨いた人間力を地域や社会のために発揮されることを期待いたします。私の好きな相田みつをの詩「こんな顔で」を贈ります。

「こんな顔で」 山田寺の仏頭によせて 相田みつを

宮沢賢治の詩にある「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」  
というのは  
こんな顔の人をいうのだろうか—

この顔は  
かなしみに堪えた顔である  
くるしみに堪えた顔である  
人の世の様々な批判に  
じっと堪えた顔である  
そして  
ひとことも弁解をしない顔である  
なんにも言いわけをしない顔である  
そしてまた  
どんなにくるしくても  
どんなにつらくても  
決して弱音を吐かない顔である  
絶対にぐちを言わない顔である

そのかわり  
やらねばならぬことは  
ただ黙ってやっていく、という  
固い意志の顔である  
一番大事なものに  
一番大事ないのちをかけてゆく—  
そういうキゼンとした顔である



この眼の深さを見るがいい  
深い眼(はな)の底にある  
さらに深い憂いを見るがいい  
弁解や言いわけばかりしている人間には  
この深い憂いはできない

息子よ  
こんな顔で生きて欲しい  
娘よ  
こんな顔の若者と  
めぐり逢って欲しい

平成 26 年度の第 3 期『耕人塾』を計画中です。これまでの反省を生かし、講話の他に課題研究や体験研修などを盛り込み、「人間力」を磨くためのより充実した研修にしていきたいと思っています。また、夏休みの宿泊研修は自然体験や交流の場も設定し、楽しく有意義なものになるよう工夫したいと思います。来年度も『耕人塾』に是非参加してみませんか。

